

戶籍法義解

完

自序

戸籍制度ハ政務ノ最モ先ニ最モ重スル所ナリ蓋シ吾  
 人ノ婚嫁死生ヲ始メ万般ノ身分事項ヲ登録シ以テ私  
 權ノ關係及社會ノ秩序ヲ確保シ而テ國家統治ノ基礎  
 ヲ爲スモノナレバナリ之レ方今文明諸國ノ等シク其  
 制度ヲ設ケル所以ナリ

本邦斯法ノ完備セザルヤ久矣今ヤ民法典ノ實施ニ伴  
 本法モ亦本月十六日ヲ以ツテ之レガ實施ヲ見ル

實ニ邦家ノ一大慶事ト謂ハザルヲ得ズ頃日日本同盟  
 法學會主佐藤正夫氏關西法律學校々友友澤清郷松山  
 藤雄ノ両子ヲ介シ余ニ講フニ本法解義ノ著述ヲ以テ  
 ス余ヤ多年同校講師ノ席ヲ汚シ講述年ヲ重子二子亦

余ノ親シク陶冶董育スル所情誼辭スベカラズ然レトモ余ヤ劇職寸暇ヲ剩サズ之ヲ辭スル再三而モ二子固ク執リテ動カス是ニ於テカ二子ニ授クルニ口頭其意旨ヲ以テシテ二子ヲシテ之ヲ筆記セシメ漸ク其責ヲ塞クヲ得タリ匆忙ノ際咄嗟此一編ヲ成ス故ニ其杜撰ニシテ文字澁滯滑脱ヲ缺クモノ蓋シ鮮少ナラサルヲ憾ム是レ決シテ二子ノ罪ニアラジ余ノ批正未タ盡サ、ル所アルニ由ルナリ他日機ヲ得ハ須ヲク改竄増補聊カ其罪ヲ償フ所アルヘキヲ期ス若シ讀者苟クモ此書ニヨリテ戸籍法ノ大要ヲ知了スルヲ得バ余ノ幸福之ニ過ギザルナリ

明治三十一年戊戌七月下院

著者識

戸籍法義解

法學士 三濱長一郎 著

持14  
89

緒論

戸籍法ハ親族制家族制及國民籍ニ由ル各人ノ身分事項ヲ公證スル手續法ナリ  
親族關係ハ人事分限ノ基礎ニシテ實ニ人生ノ自然ニ源シ國法之ヲ保護スルモノナリ親族ハ往古血縁相通シ專ラ同始祖ニ出ツルモノヲ意味シタリト雖モ中古ニ至リ漸ク家族制ノ變遷ニ伴ヒ婚姻養子ノ制度興ルニ及ヒ此嚴正ナル意味ニ於ケル親族ハ轉タ廣汎ノ稱呼ニ變化シ

一ハ血族ト雖モ世數相隔ル遠キモノハ親族タルノ關係茲ニ減盡シタルモノト爲シ一ハ婚姻養子ノ制ニ依リ血族ニアラサルモノ却テ親族タルヲ得ルニ至リ延テ現今法制ニ於テ親族ト稱スヘキモノ實ニ左ノ多キニ達シタリ

一 六親等内ノ血族

二 配偶者

三 三親等内ノ姻族

四 養子ト養親及其血族間妻ト夫家及入夫ト妻家ノ直系尊屬間ハ血族ニ準ス

戸籍ノ制ハ公ノ秩序ヲ保持スル爲メ各人ノ親族關係ヲ明カナラシメタリ家族關係ハ親族團ニシテ家長權ヲ以テ之ヲ統治スルモノナリ家長ハ之ヲ戸主ト稱シ戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ルモノヲ家族ト稱ス

家族ハ戸主ト同居スルヲ以テ本旨ト爲スト雖モ必スシモ同居セサルハカラサルニアラス只其家籍ニ由テ定マルモノナリ戸主及家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス氏ハ家籍ヲ顯スモノニシテ名ハ各人ノ人格ヲ表スルモノナレハ猥リニ變更スルコトヲ許サス公ニ戸籍ニ登錄スルニアラサレハ効力ヲ生セサルナリ

國民分限ハ日本臣民タルノ資格ニシテ其ノ取得及ヒ喪失ハ國籍法ノ定ムル所ナリト雖モ親族制ニ原由シ若クハ國權ノ處分ニ因ラサルモノナシ我國未タ國籍法ノ成律ナキヲ以テ詳細ニ之カ説明ヲ爲スヲ得ス只國際法ノ原則トシテ認メラル、所ハ左ノ四点ニ依リ定メタルモノトス

一 日本人ノ子ハ日本ノ國籍ヲ有ス

二 日本人ト婚姻シタル外國ノ女子ハ日本ノ國籍ヲ取得ス

三 特ニ管廳ノ處分ヲ以テ國民分限ヲ取得スルモノ(之ヲ歸化ト云フ)

四 任意ニ外國ノ民籍ニ入ルモノハ日本ノ國籍ヲ失フ

國民分限ハ戶籍ニ登録シテ公証スルモノトス

以上三個ノ原由ハ分テ二トス曰ク戶籍曰ク身分登記是ナリ戶籍ハ家族制ニ由テ起ル所ニシテ身分登記ハ親族制及國籍ニ由テ起ルモノナリ本法第二章乃至第四章ハ身分登記ノ事ヲ規律シ第五章乃至第八章ハ戶籍ニ關スル事項ヲ定メ兩々相俟テ本法ノ目的ヲ全スルヲ得ヘキモノナリ

戶籍及ヒ身分登記ハ各人ノ届出申請其他一定ノ方式ニ依テ之ヲ登録スルモノニシテ苟モ其事由發生センカ敢テ各人ノ注意ニ委セス強制以テ是カ手續ヲ履行セシムルカ爲メ之カ罰則ヲ設ケ以テ其強行ノ目

的ヲ達スルヲ期セリ

戶籍及身分登記ハ其事件ニ付法律上ノ効力ノ存否ニ關スル場合多キヲ以テ其方式ヲ嚴ニシ苟モ違法ノモノアラシカ其實質ニ於ケルト形式ニ於ケルトヲ問ハス總テ受理スヘカラサルモノトス  
戶籍及身分登記ハ公証ニシテ單ニ人事統計ノ記録タルニアラサルカ故ニ人事ニ關スル公私ノ法律上ノ關係ハ之ニ由リテ判定セラル、モノニシテ戶籍取扱ハ行政内部ノ事務整理ニアラス外部ニ對シテ成ス一ノ處分タルナリ

## 第一章 戶籍吏及戶籍役場

本章ニ於テハ戶籍吏ノ職務地位及戶籍吏ノ何人ナルヤ其他戶籍役場ノ管轄及位置ヲ規定セルモノニシテ第一條ハ二者ニ通スル原則ヲ示

シ第二條第三條ハ戸籍吏又ハ其職務ヲ代理スル者ヲ定メ第四條ハ戸籍役場ノ管轄ヲ規定シ第五條第六條ハ戸籍吏ノ監督及責任ノ事ヲ規定セリ其詳細ニ至リテハ以下逐條之ヲ解説スベシ

**第一條 戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ戸籍吏之ヲ管掌シ戸籍役場ニ於テ之ヲ取扱フ**

本條ハ戸籍吏及ヒ戸籍役場ノ性質ニ關スル規定ナリ

本條ニ所謂戸籍トハ法律ニ定メタル一定ノ公吏カ人ノ身分ニ關スル一切ノ事項ヲ登記スル簿冊ヲ指示ス故ニ出生嫡出子否認、私生子、認知、養子縁組、養子離縁、婚姻、離婚、相續、隱居、失踪、死亡等苟クモ人ノ身分ニ關スル一切ノ事項ヲ公証スルモノナリ而シテ本條ニ所謂身分登記ニ關スル事務トハ例ヘハ一定ノ公吏カ出生婚姻或ハ死亡等其他身分ニ關スル届出ヲ受ケ又ハ其届書ノ送付ヲ受ケタルホハ其登記

ヲ爲シ或ハ一定ノ手續ニヨリ身分登記簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ之ヲ正常ニ作成シテ請求者ニ交付ヲ爲シ其他届出人ニシテ不法ノ行爲アリタルトキハ之ニ對シテ刑事ノ訴追ヲ爲ス等身分登記ニ關スル百般ノ事務ヲ總稱スル言葉ナリ以上ノ事務ヲ管掌スル者換言スレハ戸籍簿ヲ備ヘ其管轄内ニ於ケル届出ヲ受ケ又證明ヲ與ソル等ノ事務ヲ行フ者ヲ戸籍吏ト名ケ其之ヲ取扱フノ場所ヲ戸籍役場ト稱スルナリ抑モ身分事項ノ登録ハ非訟事件トシテ取扱フ法律行爲ノ登記ト相似タレトモ是等ノ登記ハ専ラ私權ノ確實ヲ目的トスルカ故ニ當事者ノ任意ニ由ル然レモ身分ニ關スル登記ハ私權ヲ保障スルト同時ニ國家百般ノ行政施行上特ニ警察權ノ上ニ於テ強制的ニ之ヲ届出テシムルモノナリ故ニ法律行爲ノ登記事務ハ司法裁判所ニ專屬スルニ拘ハラヌ原則上戸籍管轄ハ市町村

ノ區域ニ依リ市町村役場ニ於テ市町村長ノ管掌スル所ト規定シタルモノナリ

### 第二條 市町村長ヲ以テ戸籍吏トス但區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

本條ハ何人ヲ以テ戸籍吏ニ當ツヘキヤヲ規定セリ

舊戸籍法ニ依レハ戶長ヲシテ戸籍ニ關スル事務ヲ取扱ハシメタリシカ明治二十年市町村制實施以來市長町村長ヲシテ之ヲ取扱ハシメ區ヲ置キタル市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ取扱ハシメタリ然レトモ元ト戸籍事務ハ法律行爲ノ登記ト事態相似タルモノナルヲ以テ司法裁判所ニ於テ之ヲ取扱ハシムルヲ至當トスルカ如シト雖モ法律行爲ノ登記ニ於テハ單ニ私權ヲ確定スルニ止マリ戸籍事務ノ如ク公益秩序ニ關シ諸般ノ行政施行ノ基本トナルモノト同シカラサ

ルヲ以テ之ヲ法律行爲ノ登記ニ於ケルカ如ク全ク司法裁判所ニ屬セシメスシテ行政區畫ニ從ヒ市町村長ノ管掌ニ歸セシメ區裁判所判事ヲシテ之ヲ監督セシム是實ニ戸籍吏ノ專横ヲ防止シ人民ノ權利ヲ保障スル一舉兩全ノ法規ト云フヘシ而シテ從來東京京都大阪ノ三市ニ於テハ特別市制ヲ頒布シ區長ヲシテ其區畫内ニ於ケル自治行政ヲ施行セシメタリ斯カル場合ニ於テハ其戸籍事務ハ區長ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得ルモノトス

### 第三條 戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ノ戸籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキ者戸籍吏ノ職務ヲ行フ

戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ト前項ノ規定ニ依リ戸籍吏ノ

職務ヲ行フヘキ者又ハ之ト家ヲ同シクスル者トノ戶籍又ハ身分登記ニ關スル事件ニ付テハ市ニ在リテハ市參事會員ノ一人町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ノ上席者戶籍吏ノ職務ヲ行フ

本條ハ戶籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスル者ニ關スル前條ノ變例ヲ規定シタルモノナリ

戶籍吏ハ市町村長又ハ區長ヲ以テ之ニ充ツルコト前條ノ規定スル所ナリ凡ソ戶籍吏其資格ニ於ケル公ノ職務ト戶籍吏其人ノ一身ニ於ケル私事トハ固トヨリ區別ナカルヘカラス是ヲ以テ戶籍吏カ其一身上ニ於テ生スル戶籍及身分登記ノ事項ヲ戶籍吏ノ資格ヲ以テ取扱フハ敢テ妨ケナキカ如シト雖モ戶籍及身分登記ハ公ノ證明ナリトノ證據ノ主義ヨリ推スニ於テハ自己ノ身分ヲ自ラ證明スルハ證據ノ主義ト相容レサルニ由ルナリ是本條規定ノ由リテ生スル主

要ノ理由ナリ且ツ戶籍吏ヲシテ自己ノ爲メ隨意ニ其職務ヲ行ハシムルトキハ或ハ不正ノ取扱ヲ爲シ自己ノ利益ヲ圖ルコトナシトセス元來身分ヨリ生スル法律上ノ効果ハ重且大ナリ殊ニ出生婚姻及死亡等ノ事項ハ普通各人ニ生スヘキ最重要ナル身分事項ニシテ之ニ關シテ正當ニ登記セラル、ト否トハ其登記ヲ受クヘキ當事者及第三者ニ對シテ影響スル所鮮少ナラス例ヘハ夫婦カ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ届出迄ニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及第三者ニ對抗スルコトヲ得サルカ如シ是ヲ以テ戶籍吏自身ノ戶籍及身分登記ニ關スル事件ハ戶籍吏ヲシテ自カラ取扱ハシメス必ス市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキモノヲシテ之ヲ處辨セシムルモノト定メタリ市町村長又ハ區長ノ事務ヲ代理スヘキモノトハ即チ助役又ハ上席書記等ノ謂



ニシテ此等ノ者ハ右述フル場合ニ於テ市町村長又ハ區長ニ代リ其職務ヲ行フヘキモノトス

戸籍吏自己ノ身上ニ於ケル戸籍及身分登記ハ戸籍吏自カラ之ヲ爲スコト能ハサルハ前述ノ如シ獨リ戸籍吏ノ一身上ニ於ケル事項ノミニ限ルニアラスト家ヲ同フスルモノ即チ夫婦或ハ同居ノ親族等尙クモ戸籍吏ト家ヲ同シクスルモノニ就テモ亦適用セラレヘキナリ茲ニ家ヲ同フスルモノト規定シテ家族ト云ハサルハ戸籍吏若シ家族ナラサル場合ニ於テハ之ヲ包含セサルノ嫌アルヲ以テ故ラニ廣ク家ヲ同シクスル者ト稱シテ前顯何レノ場合ヲモ包含セシメント欲セシナリ

戸籍吏及之ト家ヲ同シクスル者トノ間ニ於ケル戸籍事務ハ之ヲ代理スル市町村吏員ヲシテ其職務ヲ行ハシム而シテ代理スヘキ吏員及之ト家ヲ同シクスル者ノ戸籍事務ハ戸籍吏之ヲ取扱フカ故ニ共ニ差支ナシト雖モ戸籍吏又ハ之ト家ヲ同シクスルモノト戸籍吏ニ代リ其職務ヲ行フヘキ者又ハ之ト家ヲ同シクスル者トノ間ニ生シタル戸籍事務ハ之ヲ其何レヲシテ行ハシムルモ共ニ前述シタル證據ノ原則ニ反スルノ嫌アルヲ以テ双方共ニ之ヲ除斥シ市ニ在リテハ市參事會員ノ一人町村又ハ區ニ在リテハ他ノ吏員ニシテ最モ上席ニ在ル者戸籍吏ノ職務ヲ取扱フモノトセリ是本條第二項ノ規定スル所タリ

第四條 戸籍役場ハ市役所又ハ町村役場ヲ以テ之ニ充ツ但區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ之ニ充ツ

本條ハ戸籍役場ノ位置ヲ規定シタリ

戸籍役場トハ戸籍及身分登記ニ關スル事務ヲ管掌スル役場ナリト

ハ前述セル所ナリ而シテ本條ニ於テハ戸籍役場ハ之ヲ如何ナル場所ニ設置スハキヤヲ規定シタリ

抑モ一國ノ戸籍制度ヲ設クル所以ハ前示セル如ク吾人カ社會上ニ有スル一切ノ資格及其重要ナル變更ニ關スル諸般ノ事項ヲ明確ニ之ヲ記スルヲ即チ公私全般ノ利益ノ爲メナリ故ニ國家カ人民ノ上ニ施ス警察權ノ点ヨリ見ルトキハ公法上ノ性質ヲ帶ヒ又タ一己人カ自己ノ身分上ノ地位ヲ證明シ私權ノ關係ニ於テ他人ノ地位ヲ證明スルノ点ヨリ之ヲ觀察スルトキハ私法上ノ性質ヲ有ス故ニ戸籍事務ハ公私ノ兩質ヲ有スルモノナリ然ルニ之ヲ司法裁判所ニ專屬スルモノナリト云フカ如キハ管見タルヲ免レサルナリ故ニ戸籍ニ關スル事項ノ取扱ヲナスニ或ハ下級ノ行政官府ニ於テスルアリ或ハ初審ノ司法裁判所ニ於テスルアリ各國其規定ヲ一ニセス本邦ハ

歐米文明國ノ立法例ト從來ノ慣行ニ基キ自治行政ノ最下級ノ官府タル市長及町村長ノ役所即チ市役所及町村役場ヲ以テ戸籍役場ニ充ツルモノト爲シタリ而シテ區長ヲ以テ戸籍吏ニ充ツル場合ニ於テハ區役所ヲ以テ戸籍役場ト規定セリ

### 第五條 戸籍及身分登記ニ關スル事務ハ戸籍役場所在地ヲ管轄ス

ル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

本條ハ戸籍及身分登記ニ關スル事務ノ監督者ヲ規定シタルモノナリ

戸籍及ヒ身分登記ニ關スル事務ハ其性質タルヤ前條ニ於テ述ヘタル如ク一ハ私權ノ關係ニ於テ自己及他人ノ地位ヲ公證スル爲メナ

ルト同時ニ一ハ公益秩序ニ關シ又各般ノ行政施行ノ基ヲ爲スモノナリ故ニ法律行爲ノ登記事務ノ如ク必スシモ司法裁判所ニ專屬スルモノニアラサルナリ然レモ兩者ノ事体相似タルモノナルニヨリ之レカ管掌ニ任スルモノハ戸籍吏ト稱スル一種ノ公吏ヲシテ取扱ハシムト雖モ之カ監督ヲ爲スモノハ法律行爲ノ登記事務ニ於ケルト同一ニ下級裁判所ノ判事ニアリトス而シテ茲ニ所謂監督トハ要スルニ權力ノ歸屬者ヨリ其機關タリ行政官ノ行爲及其權限並ニ事務ノ成績吏員ノ勤惰ヲ監視スルモノニシテ司法行政ニ屬スルモノナリ司法行政(司法行政トハ下ニ説明スル所アリ)ハ天皇ノ委任ニヨリ司法大臣ノ司トル所ニシテ其監督ノ下ニ裁判所判事アリ裁判所判事ノ監督ノ下ニ戸籍吏アリテ戸籍及身分登記ノ事務ヲ取扱フモノトス然レトモ本條ニ示ス所ハ單ニ戸籍吏ヲ直接ニ監督スル官府

ニシテ其他ハ憲法及裁判所構成法ニ規定スル所タリ即チ本條ヲ見ルニ戸籍及身分登記ニ關スル事務ハ戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督スルモノトストアリ戸籍役場ノ所在地トハ現在役場ノ存在スル場所ヲ云フ故ニ一市町村ニシテ甲區裁判所ノ管轄ト乙區裁判所ノ管轄トニ跨ル場合ニ於テ其市役所又ハ町村役場ノ所在地甲區裁判所ノ管轄内ニ在ルトキハ其市町村ノ戸籍及身分登記ニ關スル一切ノ事務ハ甲區裁判所判事ノ監督ヲ受クルモノトス是レ司法裁判所ノ管轄ト行政區畫ノ差異ヨリ生スル所ナリト雖モ近年百般ノ制度完美成績セルヲ以テ以上述フルカ如キ場合ハ蓋シ少カルヘシ監督ノ意義ハ既ニ説ケリ即チ一定規律ノ下ニ事務ノ統一ヲ勉メ其責任ヲ明カニスルニアリ而シテ其區裁判所判事ハ一人ナルアリニ

人ナルコトアリ其一人ナルトキハ裁判所ニ於ケル一切ノ司法行政及裁判事務ハ其一人ノ判事之ヲ取扱フモノニシテ二人以上アル場合ニ於テハ司法大臣ハ其中ノ一人ニ就キ司法行政ヲ委任スルモノトス其委任ヲ受ケタル者ヲ監督判事ト云フ而シテ戸籍吏ヲ監督スルノ職務ハ司法行政ニ屬スルモノナルヲ以テ區裁判所判事一人ナルトキハ其一人二人以上アルトキハ監督判事ヲシテ監督ノ任ニ當ラシムルモノナリ

司法行政トハ平易ニ之ヲ云ヘハ司法裁判所ニ於ケル行政ニシテ即司法大臣ノ職司トスル行政事務アリ判事檢事ハ司法官府タルト同時ニ他ノ一面ニハ行政官府タルナリ其行政官府タル一面ニ行ハル、權力關係ヲ司法行政ト云フ而シテ戸籍及身分登記ニ關スル監督ノ事ハ司法行政ニ屬スルモノニシテ此等ノ事務ニ付テモ亦裁判所

構成法ノ定マル所ニ從ヒ漸次其上級官府ノ監督スルモノトス即チ戸籍及身分登記ニ關スル事務ハ區裁判所判事ノ一人又ハ監督判事之ヲ監督シ地方裁判所長之ヲ監督シ控訴院長ハ地方裁判所長ヲ監督シ遂ニ司法大臣ノ監督ニ歸スルモノトス是第二項ノ命スル所ナリ

**第六條** 戸籍吏カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ戸籍吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限り之ヲ賠償スル責ニ任ス

本條ハ戸籍吏ノ責任ヲ規定シタリ

行爲又ハ不行爲ノ義務ヲ負擔セルモノガ其義務ヲ盡サスシテ他人ニ損害ヲ加ヘタルハ其過失ニ出タルト否トヲ問ハズ爲メニ通常生スベキ損害ノ賠償ヲナスベキモノナルハ民法ニ於ケル損害賠償

ノ一大原則ナリ

若シ此原則ヲ以テ本條ヲ推及スルハ戸籍吏ガ其自己ノ職務ヲ正當ニ執行セズシテ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルハ戸籍吏ハ凡テノ場合ニ於テ之ガ賠償ノ責任ヲ負フヘキモノト云ハサルヘカラサルナリ然レトモ戸籍及身分登記ニ關スル事務ノ如キハ最モ複雑ナルヲ以テ往々過失アルヘキハ人タル者ノ免レ得ヘキ所ニアラス是故ニ如何ナル過失ト雖モ之ニ因テ加ヘタル損害ハ總テ賠償ノ責アリト爲ストキハ人ヲ咎ムル甚タ苛酷ニ失スルノ嫌ヒアルノミナラス事ニ當リ職ヲ競々徒ラニ事務ノ滯滞ヲ醸シ其得ル所ハ以テ其失ヲ所ヲ償フニ足ラサルモノアルニ至ルヘシ故ニ法律ハ輕過失ニ基ク責任ハ全ク之ヲ免除シ以テ當該吏ヲシテ安心シテ事務ニ従事スルコトヲ得セシメ只職務ノ執行届出人其他ノ者ニ加ヘタル損

害ハ左ノ區別ニ從ヒ其責ニ服セシムルコト、セリ

(一) 故意ヲ以テ損害ヲ加ヘタルトキ

是自ラ損害ヲ加フルコトヲ知リツ、爲シタル行爲ナレハ之ヲシテ賠償ノ責任ナカラシメンカ天下何人カ賠償ノ責ヲ負擔スベキモノアラシヤ是レ本條ニ於テ第一ニ除外シタル所以ナリ然レトモ故意ナルヤ過失ナルヤハ損害ヲ受ケタル其届出人其他ノ者ヨリ之カ證明ヲ爲サ、ルヘカラサルハ證據法ノ原則ナリ故ニ若シ其ノ證明ヲ爲ス能ハサルトキハ假令ヒ如何程損害ヲ受クルト雖トモ賠償ヲ求ムルコトヲ得ザルハ喋々ヲ待タズシテ明カナリ

(二) 重大ナル過失ニヨリ損害ヲ加ヘタルトキ

重大ナル過失トハ輕少ナル過失ニ對スルノ謂ニシテ輕少ナル注意ヲ以テ輒ク排除シ得ヘキニ拘ハラズ其注意ヲ爲サ、リシニヨリ招

キタル過失ヲ云フ

戸籍吏ハ前述シタル如ク輕過失ノ責ニ服セスト雖モ重大ナル過失ニ至テハ毫モ其責任ヲ免ル、能ハズ相當賠償ノ責ニ任ゼザルベカラザルノミナラス或ハ法定ノ制裁ヲ受クル場合ナキニアラザルナリ是レ職務ノ執行ヲ戒飾シ正直熱心ニ職務ニ従事セシメ苟モ輕躁浮泛他人ノ權利ヲ侵害セシメサランコトヲ欲シタルニ外ナラザルナリ

(三) 輕過失ニ因リ損害ヲ加ヘタルトキ

輕過失トハ重大ナル過失ニ對スルノ言葉ニシテ重大ナル注意ヲ爲スニアラザレハ免ルヘカラサル過失ヲ云フ此場合ニ於テモ普通スル輕過失ヨリ生ジタル損害ナリト雖モ賠償ノ責ナキニアラズト雖モ抑々戸籍吏ハ前述ノ理由ノ如ク其執行スヘキ事務ノ錯雜ナルヨ

リ斯ル輕過失ヨリ生スル責任ヲ免除セリ是レ中庸其宜キヲ得タルモノト謂フヘキナリ

戸籍吏カ輕過失ノ責ヲ免ル、ハ戸籍吏ヲシテ安全ニ其職務ヲ執行セシメントノ趣旨ニ出ツルニ外ナラス故ニ戸籍吏カ其職務執行以外ニ於テ加ヘタル損害ハ一般民法ノ原則ニヨリ賠償ヲ爲スヘキヤ言フ俟タス是本條ニ職務執行ニ付云々ト云ヘル所以ナリ而シテ重大ナル過失ナルヤ將ク輕少ナル過失ナルヤハ事實問題ニシテ法律問題ニ非ラズ故ニ其生ジタル事實ニ就キ裁判官ノ判定ヲ俟テ始テ決スルモノトス

茲ニ注意スヘキハ過失ノ結果重大ナル損害ヲ來スヘキ場合ノ如キハ何人モ深ク注意スヘク其結果輕少ナルモノニ在リテハ往々注意ヲ缺クコトアルハ常ニ免レ難キ所ナリ然レトモ結果大ナルカ故ニ

注意僅少ナリシト云フヘカラス結果少ナリト雖モ必スシモ注意深厚ノ結果ナリト断定スヘカラス要スルニ事ノ性質及其人ノ往行並ニ時ト場合トニヨリ之カ判断ヲ下サ、ルヘカラサルヤ知ルヘキノミ

## 第二章 身分登記簿

本章ヨリ第四章ニ至ル三章ハ身分登記ニ關スル規定ニシテ本章ハ即身分ヲ登記スル帳簿ニ就テ規定シ次章ハ其登記ノ手續第四章ハ其届出ニ關スル事項及其手續ナリトス身分登記簿ハ身上ノ異動ヲ公證スル唯一ノ憑據ニシテ戸籍吏之ヲ管掌シ身分ニ關スル登記ノ請求ヲ受クル毎ニ之ヲ記入スルモノニシテ其帳簿ハ之ヲ永久ニ保存スヘキモノタリ保存ハ之ヲ戸籍役場ニ於テシ萬止ヲ得サル場合ノ外ハ役場外

ニ持出スコト能ハサルモノトス若シ毀損滅失等ノ事アルニ於テハ速ニ之ヲ補完セサルヘカラス而シテ身分登記ノ事タル公證ノ趣旨ニ出タルモノナレハ何人ニテモ之ヲ閱覽スルコトヲ得ルモノニシテ必要アル場合ニハ手数料ヲ納メテ之カ謄本又ハ抄本ヲ請求スルコトヲ得ルナリ

以下各條ニ就キ逐次之カ説明ヲ爲サントス

第七條 身分登記簿ハ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種トシ各正副二本ヲ備フ

各種ノ登記簿ハ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ區別ニ從ヒ各別冊ト爲ス但便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

本條ハ身分登記簿ノ種類及員數ヲ規定シタルモノナリ

身分登記簿ハ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ノ二種ニ區別シ各其必須ノ事項ヲ記載スルモノタリ

茲ニ本籍人トハ戶籍役場所所在地ヲ管轄スル行政區畫ノ内ニ本籍ヲ有スルモノヲ云ヒ非本籍人トハ其區畫外ニ本籍ヲ有スルモノヲ云フ其詳細ニ至テハ後ニ説ク所アラシ

本籍人身分登記簿ト非本籍人身分登記簿ハ各正本ト副本トヲ備ヘサルヘカラス而シテ正本ハ戶籍役場ニ備ヘ副本ハ登記ヲ終結シタルトキ之ヲ管轄地方裁判所ニ納付シ共ニ永久ニ保存スヘキモノナリ

本籍人身分登記簿非本籍人身分登記簿ノ各正副二本ハ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル出生、嫡出子ノ否認、私生子ノ認知、養子縁組、養子離縁、婚姻、離婚、後見、隠居、失踪、死去、家督相續、推定家督相續人

ノ廢除、家督相續人ノ指定、入籍離籍及入籍拒絶、廢家及ヒ絶家、分家及廢絶家、再興國籍ノ得喪、氏名族稱ノ變更、身分登記ノ變更等各事件ノ區別ニ從ヒ各別冊トナサシム是索引ニ便ニシ登記ノ事項ヲ明瞭ナラシムカ爲メナリ然レトモ登記事項僅少ナル町村ニ於テ各別冊ト爲スノ必要ヲ感セサルトキハ便宜合綴スルコトヲ得セシム蓋シ徒ラニ多數ノ帳簿ヲ作製スルハ更ニ利益ナクシテ反テ混雜ヲ招クノ恐レアレハナリ

本條ノ規正ニヨリ身分登記ニ要スル帳簿ハ正副合計八十冊ナルコトヲ知ルヘシ但シ合綴スルモ四冊ヲ下ルコトヲ得サルナリ

### 第八條 身分登記簿ハ一年毎ニ之ヲ編製ス

本條ハ身分登記簿ノ使用期間ヲ定メタリ  
人ノ身分ハ時々轉換アルモノニシテ例ヘハ戶主ガ隠居ヲ爲シ獨身



者ガ妻ヲ娶リ子ヲ生ム等凡テ身分登記簿ニ記載セル事項ノ變動頻繁ナルヘキヲ以テ永年之ヲ使用スルトキハ復雜混亂一見明瞭ナルヲ得サルノミナラス遂ニハ錯誤ヲ生シ他人ノ權利ヲ侵害スルニ至ルノ恐レナキヲ保セス是ヲ以テ使用期限ハ之ヲ一ケ年ニ制限シ毎年新タニ之ヲ編成スルモノト定メ以テ一面紛亂ヲ豫防シ一面新調ノ手數ヲ省クニ勉メタリ

**第九條** 戸籍吏ハ豫メ翌年ノ身分登記簿ト爲スヘキ帳簿ヲ作り監督官ノ契印ヲ請フコトヲ要ス

監督官カ帳簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印シ表紙ノ裏面ニ其枚數ヲ記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ戸籍吏ニ還付スルコトヲ要ス

本條ハ身分登記簿ノ作成ニ就テノ手續ヲ定メタリ

身分登記簿ハ毎年一回之ヲ編成スルモノナルコトハ前條ノ定ムル所タリ而シテ身分登記ハ日ヲ選ハス届出ツルヲ以テ豫メ翌年ニ使用スヘキ身分登記簿ヲ作り以テ民衆ノ需求ヲ待タサルヘカラス是本條第一項ノ命スル所ナリ而シテ其帳簿ハ戸籍吏之ヲ作り監督官タル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事ノ契印ヲ請フモノトス蓋シ其契印ヲ請フ所以ノモノハ身分登記簿ノ記載事項ハ唯一ノ公證ナルヲ以テ其帳簿編綴用紙ノ増減變更若クハ偽造ヲ防クノ趣旨ニ出タルニ外ナラス

契印ヲ求ムル爲メ帳簿ノ送付ヲ受ケタル監督官ハ先ツ其職印ヲ以テ每葉ノ綴目ニ契印ヲ爲スモノトス(蓋シ契印ハ用紙ノ刪減變更セラル、ヲ防クノ必要ヨリ來リタルモノナリ)且其帳簿ノ表紙ノ裏面ニ全冊紙數ヲ記シ官職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺ス(其用紙ヲ増減スル

能ハサラシメンカ爲メナリ是レ公證タル性質ヨリ生スル結果タリ、監督官以上ノ手續ヲ終リタルトキハ之ヲ戸籍吏ニ還付セサルヘカラス而シテ戸籍吏之ヲ監督官ニ提出シ又監督官還付スルノ日時期間ハ法文之ヲ明示セス是レ畢竟相當ノ時日内ニ其手續ヲ爲スヘキヤ論ヲ俟タサレハナリ

**第十條** 身分登記簿ノ用紙力不足ナルトキハ戸籍吏ハ更ニ帳簿ヲ作リテ契印ヲ請フコトヲ要ス

本條ハ身分登記用紙ノ不足ヲ告ケタルトキハ如何ニシテ之ヲ補充スヘキヤヲ規定シタルモノナリ

身分登記簿ハ前規定スル如ク之ヲ増減變更スヘカラサルモノナリ而シテ其帳簿ノ用紙不足ヲ告クルニ至リタルトキハ之カ登記ヲ爲スヲ得サルカ故ニ更ニ別個ノ帳簿ヲ作り前條ノ手續ニヨリ契印ヲ

請求シ之カ準備ヲ爲スヘキモノトス

**第十一條** 身分登記簿ノ正本ハ永久ニ之ヲ戸籍役場ニ保存スルコトヲ要ス

登記ヲ終結シタル身分登記簿ノ副本ハ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スルコトヲ要ス

地方裁判所ハ其納付ヲ受ケタル身分登記簿ノ副本ヲ永久ニ保存スルコトヲ要ス

本條ハ身分登記簿保存ノ事ヲ規定セリ

身分登記簿ハ人ノ身分ニ關スル唯一ノ公證ナルコト前ニ述タル所ナリ若シ紛失又ハ毀損スルトキハ人ノ身上ニ重大ナル影響ヲ及ボスモノナルヲ以テ戸籍吏ハ其責任ヲ以テ之ヲ永久ニ保存セサルヘカラス(若シ夫レ滅失シタルトキニ至テハ如何ニスヘキヤハ第十四

條ヲ説クニ當テ説明スヘシ

身分登記簿ニ正本及副本ヲ要スルハ第七條ニ規定セリ而シテ正本ハ戸籍吏之ヲ戸籍役場ニ於テ保存スルモノニシテ副本ハ登記ヲ終結シタルトキ遲滯ナク監督區裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ納付スヘキモノトス是正本ト副本ト相俟テ其登記ノ正確ヲ保維スルモノナレハ保存ノ場所ヲ異ニシ以テ簿冊ノ紛失ヲ永久ニ防止シテ以テ登記事項ノ證明ヲ永遠ニ保持セント欲スルニアルナリ  
副本ヲ保存スル裁判所ハ管轄地方裁判所ナリトス是地方裁判所ハ身分ニ關スル訴訟ヲ管轄スルヲ以テ之ヲ備付スルハ最モ其ノ便宜ヲ得タルモノナルヘシ而シテ其保存期間ノ永久タルヘキヤ又前述ノ理由ト同一ナルヲ以テ更ニ茲ニ之ヲ贅セス

### 第十二條 身分登記簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外之

ナ戸籍役場外ニ持出スコトヲ得ス但登記ヲ終結シタル登記簿ニ付キ裁判所又ハ豫審判事ノ命令アリタルトキハ此限ニ在ラス  
本條ハ前條ノ例外ヲ規定シタルモノナリ

身分登記簿ハ戸籍役場ニ於テ之ヲ保存スヘキモノナルコト前條ニ規定スル所ニシテ如何ナル場合ト雖モ戸籍役場ノ外ニ持出スコトヲ得サルモノトス若シ夫レ之ヲ自由ニ持出スコトヲ得ルモノトセハ身分登記簿ノ性質ニ反ス故ニ之レヲ役場外ニ持出シ毀損變更等ヲ生シタル場合ニ於テハ更ニ之ヲ編成スルノ困難ナルハ勿論往々誤謬ヲ來シ又ハ詐僞ニ陥リ復タ正確ノ帳簿ヲ得ヘカラサルニ至ルヘケレハナリ然レトモ水難火災其他ノ事變ニ當リ他ニ避タルニ道ナキ場合ニ限り之ヲ持出スコトヲ得セシメタリ是レ事變ハ人力ノ左右スヘカラサル所ナルヲ以テ止ムヲ得サルニ出タルノ規定ト云

ハサルヘカラス

以上ノ如ク身分登記簿ハ戸籍役場ノ外ヘ持出スコトヲ得スト雖モ其正本ニシテ既ニ登記終結シタルモノナルトキハ裁判所又ハ豫審判事ノ命令アル場合ニ限リ之ヲ持出スコトヲ得ルモノトス蓋シ終結シタル帳簿ハ更ニ登記ノ必要ナク殊ニ裁判所又ハ豫審判事ノ命令ハ權力ノ發動ニ因リ裁判上又ハ犯罪豫審處分上必要ノ爲メ一定ノ目的ニ於テ公益上ノ必要ヨリ生ジタルモノナレバ其命令ニテ爲サルベカラズ然レトモ縦令裁判所又ハ豫審判事ノ命令ナリト雖モ登記ノ未ダ完結セサルモノハ其命令ニ從フヘキニアラス戸籍吏ハ斷然之ヲ拒否スルノ權アルモノト知ルヘシ

**第十三條** 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ身分登記簿ノ閱覽又ハ登記ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ作り原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ戸籍吏之ヲ送付スルコトヲ要ス

戸籍吏カ閱覽又ハ交付ノ請求ヲ許ササル場合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

本條ハ身分登記簿閱覽及謄本又ハ抄本交付ノ事ヲ規定セリ身分登記簿ハ公正ノ帳簿ニシテ一般人ノ身分ヲ證スル爲メ之ヲ設備シタルモノナリ從テ登記ヲ受ケタル本人ノミナラス凡テノ人ヲシテ之カ閱覽ヲ得セシメサルヘカラス是レ恰モ行爲ニ關スル登記簿ハ何人ニテモ閱覽シ得ルト同一ノ趣旨ニ出タルモノナリ當ニ之

ヲ閱覽スルヲ得ルノミナラス謄本又抄本ヲ得ルノ必要アルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス謄本トハ身分登記簿ノ全文ヲ謄寫シタルモノニシテ抄本トハ其趣旨ノ要領ヲ拔書シタルモノナリ是レ場合ニヨリ抄本ヲ以テ足ルコトアリ謄本ニアラサレハ用ヲ辨セサルコトアレハナリ只其必要ニ應シテ之ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

身分登記簿ヲ閱覽シ又ハ謄本若クハ抄本ヲ請求スルニハ手数料ヲ納付セサルヘカラス是何人ト雖モ隨意ニ之ヲ請求ヲ爲シ得ルモノナルヲ以テ徒ラニ其用ナキニ好テ閱覽ヲ請ヒ交付ヲ求ムルモノナシトセス若シ夫レ如斯ニ至テハ之ヲ閱覽ヲ許シ謄本又ハ抄本ヲ交付スルノ精神ニ戻ルノミナラス其煩雜ニ堪ヘサルヲ以テ一定ノ手数料ヲ納ムルニアラサレハ閱覽ヲ許サス謄本若クハ抄本ヲ交付セ

サルコト、ナシタリ實ニ當然ノ規定ト云ハサルヘカラス而シテ其手数料ノ額ハ本法之ヲ規定セスト雖モ他日法律又ハ命令ヲ以テ規定セラル、モノナルベシ

謄本又ハ抄本ノ請求アリタルトキハ戸籍吏ハ之ヲ與フヘキモノナリヤ將タ與フヘカラサルモノナルヤヲ考察シ之ヲ與フヘシトセハ速ニ其謄本又ハ抄本ヲ作り原本ト對照シ其末尾ニ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ之ヲ交付スルコトヲ要ス是其責任ヲ明カニスルト共ニ正當ノ手續ニ依リ作製セラレタルモノナルコトヲ證スルモノトス

謄本又ハ抄本ノ請求者戸籍役場所在地外遠隔ノ地ニ在リ又ハ用務ノ爲メ自カラ戸籍役場ニ出頭スル能ハサル場合ニ於テハ手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ之ヲ請求スルヲ得ルモノトス戸籍吏ハ右ノ請

求アリタルトキハ之ヲ郵便ニ付シ送付セサルヘカラス然レトモ郵便ニ付シテ之カ送付ヲ求メタルトキハ其郵送中ニ於テ喪失シ又ハ毀損シタルトキト雖モ戸籍吏ハ其責ニ任セス請求者自ラ其損害ヲ負ハサルヘカラザルアリ或ハ郵送者ノ任ニ歸スベキアリ這ハ事實ノ如何ニヨリテ決セザルベカラザルナリ

戸籍吏ハ身分登記簿ノ閱覽ヲ許スト否ト謄本又ハ抄本ノ請求アリタルトキハ之ヲ與フヘキモノナリヤ否ヤハ其職權ヲ以テ判別スヘキモノナルコトハ前ニ述タル所ナリ而テ若シ之カ閱覽ヲ許スヘカラス又之ヲ與フヘキモノニアラスト思量シタルトキハ其旨ヲ書面ニ認メ之ヲ請求者ノ告知セザルベカラズ故ニ若シ戸籍吏ガ身分登記簿ノ閱覽ヲ拒ムニ正當ノ理由ヲ以テセズ又ハ正當ノ理由ナクシテ身分登記又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ヲ交付セサル等ニ於テハ法定ノ制裁ヲ免レザルナリ詳細ハ後章ニ於テ説明スル所アルベシ

#### 第十四條 身分登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタルトキハ司法大臣ハ其旨ヲ告示シ且身分登記簿ノ再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ要ス

本條ハ身分登記簿ノ滅失シタル場合ノ規定ナリ

天災地變ハ人力ヲ以テ左右スヘカラサルモノナリ身分登記簿ハ非常ニ周到ナル注意ヲ以テ保存スト雖モ天災地變ノ爲メニ之ガ滅失ヲ來スヘキ場合ナシト云フヘカラス獨リ不可抗力ノ原因ニ止マラズ其他ノ原因ニヨリ全部又ハ一部ノ滅失ヲ招クコトヲ保セズ斯ル場合ニ於テハ素ヨリ之ヲ緩漫ニ付シ去ルヘキモノニアラサルヤ言ヲ俟タス而シテ滅失ニハ全部ノ滅失アリ一部ノ滅失アリ其何レノ場合タルヲ問ハズ之ヲ再製シ又ハ補完セサルヘカラサルヤ當然ナ

リトス

身分登記簿ノ最重最要ナルモノナルコトハ前屢々述フル所ノ如シ而テ若シ其滅失シタルトキハ之ヲ再製又ハ補完スルニ當リテハ可及的従前ノ登記事項ヲ調査シ滅失以前ノモノト同一ニシ以テ各人ノ身分ニ關スル證明ノ事項ニ異同ナキコトヲ期セザルベカラズ從ツテ充分之カ調査ヲ遂ケサルヘカラス之カ調査充分ナラント欲セハ勢ヒ戸籍吏ヲシテ必要ナル處分ヲ爲サシメサルベカラザルガ故ニ司法大臣ハ此等必要ノ處分ヲ命スルコトヲ得ルナリ是レ當然ノ規定ト云フヘキナリ

### 第三章 登記手續

第十五條 身分登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

- 一 戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケザルハ其届書ノ送付ヲ受ケタルトキ
  - 二 戸籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ
  - 三 戸籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケ又ハ其謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ
  - 四 戸籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ
  - 五 戸籍吏カ登記ノ取消又ハ變更ノ申請若クハ請求ヲ受ケタルトキ
  - 六 戸籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ
- 本條ハ身分登記ノ原因即チ登記ヲ爲スヘキ場合ヲ規定シタルモノナリ

第一 戸籍吏カ身分ニ關スル届出ヲ受ケ又ハ其届出ノ送付ヲ受ケタルトキ

身分ニ關スル届出ヲ受ケタルトキハ本法第四章第四十二條以下ノ規定スル所ニ從ヒ本人又ハ代理人ヨリ届出ヲ爲シタルトキヲ云フ、身分ニ關スル届書ヲ受取タルトキトハ第三十三條乃至第三十五條ノ場合ヲ云フ詳細ハ同條ニ就テ説明スヘシ

第二 戸籍吏カ身分ニ關スル報告ヲ受ケタルトキ

報告トハ是亦第四章ニ規定セル所ナルヲ以テ同章ヲ説クニ當テ説明スヘキモ一例ヲ掲クレハ第二百二十九條ニヨリ監獄ノ長官ノ爲ス死亡報告及第三百三十一條第三百二十二條ニ規定セル死亡報告等ヲ受ケタルトキノ如キ是ナリ

第三 戸籍吏カ身分ニ關スル證書ノ謄本ヲ受ケ又ハ其謄本ノ送

付ヲ受ケタルトキ

謄本ヲ受ケタルトキトハ例ハ第六十一條ニ依リ滞在國ニ公使又ハ領事ナキトキハ歸國ノ後謄本ヲ戸籍吏ニ差出ス時ノ如シ又謄本ノ送付ヲ受ケタルトキトハ例ハ第六十條ニ依リ日本人外國ニ在ルトキ自分上ノ變更ヲ生シタルトキハ外國官廳ニテ身分ニ關スル證書ヲ作ラシメ之カ謄本ヲ本邦ノ公使又ハ領事ニ差出シ公使又領事ハ外務大臣ニ送致シ外務大臣ハ之ヲ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スル時ノ如キヲ云フ

第四 戸籍吏カ身分ニ關スル事項ヲ記載シタル航海日誌ノ謄本ノ送付ヲ受ケタルトキ

例ハ第七十八條ニ依リ船中ニテ出生シタル子ハ第六十八條ノ方式ニヨリ船長航海日記ヲ作り之ヲ本籍地ノ戸籍吏ニ送付スルモノ



ナルヲ以テ之ヲ受領シタル時ノ如シ詳細ハ同條ニテ説明スヘシ

第五 戸籍吏カ登記ノ取消又ハ變更ノ申請若クハ請求ヲ受ケタルトキ

戸籍吏カ登記ノ取消ノ申請ヲ受ケタルトキトハ例ヘハ第百六條ニ依リ婚姻ノ登記取消ノ申請ニ接シタル場合ノ如シ

又登記變更ノ請求ヲ受タルトキトハ例ヘハ第百六十八條ニヨリ身分ノ登記變更ヲ請求スル場合ノ如キヲ云フ

第六 戸籍吏カ登記ヲ爲スヘキ旨ノ裁判ヲ受ケタルトキ

例ヘハ身分ニ關スル届出ヲ爲シタルニ戸籍吏其登記ヲ拒ミタルトキ届出人ハ第八章ノ規定ニヨリ管轄區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ結局其抗告ヲ理由アリトスルトキハ裁判所ハ戸籍吏ニ登記ヲ命スル場合ノ如シ

凡ソ立法上法文ニ適用セラレヘキ事項ヲ逐一列記シ更ニ其他ニ及ボサシメサルモノアリ又多數ノ場合ヲ悉ク記載スルノ煩ヲ避ケ一ニ其主要ナルモノヲ掲ケテ性質是ト類似ノモノニ之ヲ敷衍適用スルコトヲ得セシムルモノアリ前者ハ之ヲ限定的ノ規定ト云ヒ後者ハ之ヲ例示的ノ規定ト云フ而シテ法文限定的ノ規定ナル場合ニ於テ之ヲ類似ノ場合ニ及ボシタルトキハ全ク無効タルヘキモ例示的ノ規定ナルトキハ獨リ其効力ヲ有スルノミナラス成ルヘク數多ノ場合ニ敷衍適用スヘキモノタリ故ニ法文カ限定的ノ規定ナルト例示的ノ規定ナルトニ深ク注意シ以テ其適用ヲ誤マラサルハ法律ヲ解スルモノ、當ニ勉ムヘキ所ナリトス而シテ本條六個ノ原因ハ限定的ノ規定ナルヲ以テ是ヲ他ニ及ボスコトヲ得ス是レ此重要ナル身分登記ナルカ故ニ極メテ鄭重嚴正ヲ趣旨トシ其原因ノ正當確實

ナルニ非ラサレハ是カ登記ヲ爲スヘカラサラシメ以テ戶籍吏ノ專横ヲ防止スルノ精神ニ出タルモノトス

前示ノ如ク登記ハ本條ニ掲記セル原因以外ノ場合ニ及ホスヘカラサルモノナルヲ以テ若シ戶籍吏カ他ノ原因ニヨリ登記ヲ爲シタルトキハ其無効タルヘキハ勿論之ニ依テ損害ヲ加ヘタルトキハ第六條ニヨリ損害賠償ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルヤ言フ俟タサルナリ

**第十六條** 前條ニ掲ケタル場合ト雖モ届出、送付其他ノ手續カ本法ノ規定ニ依リタルモノニ非サレハ登記ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ前條ノ届出送付其他ノ手續ハ必ス本法ニ依ルヘキヲ命シタリ  
凡ソ法律上諸般ノ形式ヲ履ムヘキコトヲ規定セルハ事務ノ秩序的

ニ且正確迅速ニ執行セノレンコトヲ希望スルト誤謬ヲ避クルトノ趣旨ニ出タルモノナリ身分登記ノ事タル前屢述タル所ノ如ク人ノ身分上ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナレハ若シ之カ記載事項ニシテ不實若クハ届出人ニシテ當事者ニ非ラサランカ其影響ヲ受クルモノ蓋シ鮮少ナラサルナリ是ヲ以テ極メテ鄭重ニ之カ取扱ヲ爲サルヘカラサルハ勿論前條第一號乃至第六號ニ掲クル登記ノ原因總テ本法ノ規定ニ適合スルモノニアラサレハ其登記ヲ爲スコトヲ得サルナリ

本法ニ於テ諸般ノ手續ヲ規定シタル所以ノモノハ專ラ本法ニ遵據シテ全ク其形式ニ則ラシメントノ趣旨ナレハ將來本條ノ改正セラレ、ニ至ル迄ハ他ノ法律命令ニ如何ナル規定アリト雖モ是レニ依ルヘキニアラス若シ戶籍吏之ニ反シテ登記ヲ爲シタルトキハ其登

記ハ無効ニシテ是カ爲メ損害ヲ加ヘタルトキハ又賠償ノ責アルモノトス

### 第十七條 登記ハ法律ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

本條ハ登記取消及變更ノ手續ヲ規定セリ  
身分登記ノ鄭重ヲ要スヘキモノナルト同時ニ又之ヲ取消シ變更スルニモ極メテ嚴正ノ手續ヲ履マサルヘカラス而シテ登記スル場合ハ本法ノ手續ニ依ルニアラサレハ其効力ナキコト前條既ニ是ヲ規定セリ然ルニ本條ニ於テハ取消又ハ變更ハ當ニ本法ノミナラス他ノ法律ニヨリテモ亦取消スコトヲ得ヘキモノトナシタリ是レ身分登記ノ取消又ハ變更ハ登記ノ場合ヨリモ其事態稍輕易ナリト推定シタルニアラス其取消又ハ變更スヘキ場合ノ如キハ實ニ種々雜多

ノ原因アルヲ以テ之ヲ網羅シテ一々本法ニ規定シ得ヘキニアラス寧ロ之ヲ各法律ノ規定ニ讓ルノ便ニシテ且簡ナルニ若カスト思量シタルニ由ルカ故ナリ民法及人事訴訟手續法ノ如キ往々此場合ヲ散見スル所アリ就テ見ルヘシ

### 第十八條 戸籍吏カ届出、報告其他登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受附ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ遲滞ナク登記ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ戸籍吏カ登記ニ關スル書類ヲ受取タル第一着ノ手續ヲ規定シタルモノナリ  
戸籍吏カ前三條ノ規定ニ依リ届出報告其他登記ニ關スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ニ受付番號及年月日ヲ記載スルモノトス是レ登記ノ順位ハ受付ノ前後ニ依リテ定ムルモノナレハ他日必要ナ

ル場合ニ當リ搜索ノ便アルト共ニ申請者ノ權利ニ消長ヲ來タスコト之レアルヘケレハナリ而シテ受付番號ヲ付シタルトキハ遲滯ナク其順序ニ從ヒ登記ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス

本條遲滯ナクト云ヘルハ豫メ時限ヲ一定シタルニアラスト雖モ要スルニ可及的迅速ニトノ意味ナルニ外ナラス

### 第十九條 登記ハ本籍人、非本籍人及ヒ登記ヲ爲スヘキ事件ノ區別ニ從ヒ相當ノ登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ登記スヘキ事項ト其登記簿ニ就テノ規定ナリ

身分登記簿ハ本籍人身分登記簿ト非本籍人身分登記簿ノ二種アルコトハ第七條ノ規定スル所ナリ又同條第二項ニ於テハ届出事件ノ種類ニ從ヒ各別冊ノ帳簿ヲ設クルモノナルカ故ニ本條ハ本籍人ノ登記又ハ非本籍人ノ登記ハ各其相當登記簿ニ登記スヘク且登記事

件ノ種類ニ從ヒ各當該ノ登記簿ニ登載スヘキヲ命シタリ而シテ若シ本條ニ違背シテ本籍人ノ身分登記ヲ非本籍人身分登記簿ニ登記シ又ハ事項ニ相當セサル帳簿ニ登記シタルトキハ其登記ハ全ク無効ナルモノナリ尤モ爲メニ損害アリタルトキハ第六條ニ依リ其賠償ノ責ニ任スヘキヤ言ヲ俟タサルナリ然レトモ或ハ之ヲ有効ナリトスルモノアリ其說ニ曰ク本條ノ規定タルヤ單ニ訓示的ノ規定タルニ過キス訓示的トハ所謂内部ニ止マルノ規定ニシテ外部ニ對シテ行ハル、モノニアラス縱令其帳簿異ナリタリト雖モ既ニ登記セラレタル以上ハ敢テ其効力ヲ消却シ去ラル、モノニアラス若シ然ラサレハ被登記者ハ測ルヘカラサル損害ヲ醸スコトアルヘシ第六條ノ規定アリト雖モ其記載ノ帳簿ヲ取違フル如キハ強テ重過失ト云フヘカラサレハ第六條ヲ適用スヘキ限リニアラサルヘシト是レ

亦好個ノ議論タルヲ失ハス其可否ハ一ニ讀者ノ判断ニ任スヘシ

### 第二十條 被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニ因リ戸籍吏ノ管轄

ニ歸シ又ハ其管轄ヲ離ルル場合ニ於テハ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

一箇ノ登記ニシテ本籍人及ヒ非本籍人ニ關スルトキハ同時ニ本籍人身分登記簿及ヒ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

本條ハ本籍人身分登記簿及非本籍人身分登記簿ニ登記スヘキ場合及其方法ヲ規定セリ

本條ニ依レンハ本籍人身分登記簿ニ記載スヘキ場合左ノ如シ

- (一)被登記者ノ本籍カ届出其他ノ事由ニヨリ戸籍吏ノ管轄ニ歸スル場合

此場合ハ從來其戸籍吏ノ管轄ニ屬セザリシモ第十五條ニ定メタル届出其他ノ事由ニヨリ新タニ其戸籍吏ノ管轄ニ屬シタルトキ是ナリ

- (二)被登記人ノ本籍カ届出其他ノ事由ニヨリ戸籍吏ノ管轄ヲ離ル、場合

從來其戸籍吏ノ管轄ナリシモ届出其他ノ事由ニヨリテ將來其戸籍吏ノ管理ヲ離ル、場合ヲ云フ右二ケノ場合ニ在リテハ根本的變動スルモノナルヲ以テ何レモ本籍人身分登記簿ニ就キ除籍又ハ新タニ加籍ノ手續ヲ爲フヘキモノトス

次ニ本籍人身分登記簿ト非本籍人身分登記簿ト共ニ記載スヘキ場合ハ一個ノ登記ニシテ本籍人及非本籍人ニ關スル場合はナリ此場合ニハ同時ニ右二帳簿ニ記載スヘキモノトス例ハ本籍分明ナラ

スシテ非本籍人ノ籍ニ在リタル者其本籍人タルコトノ分明ニ至リタルトキノ如キヲ云フ

而シテ右双方ニ登記シタルトキハ對照ノ便宜ノ爲メ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ付記スルモノトス其符號ノ如何ニ至テハ他日細則等ヲ以テ規定セラルヘシ

### 第二十一條 被登記者ノ本籍カ分明ナラサルトキハ非本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ非本籍人身分登記簿ニ登記スヘキ場合ヲ規定セリ  
非本籍人身分登記簿ハ非本籍人ノ身分及本籍分明ナラサル者ノ身分ヲ登記スルモノトス抑モ人ノ子タルモノ親ナキハ有ラサルナリ而シテ子ハ父ノ家ニ入り父ナキノ子ハ母ノ家ニ入り父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創設ス可キヲ以テ家ナキノ人アルヘカラサルナリ

然レモ素ト家ト本籍トハ自カラ別個ノモノニシテ本籍ハ全ク形式ニ止ルカ故ニ或ハ時ニ本籍ナキモノアリ又本籍ヲ有スルコト分明ナルモ其何レノ地ニ在籍ナルヤ知ルヘカラサルモノアリ此等ノ者ハ皆非本籍人身分登記簿ニ登記スヘキモノタリ何トナレハ若シ本籍ナク若クハ本籍分明ナラサルノ故ヲ以テ身分登記ヲ爲ス能ハストセハ國家ノ民族タルノ徵標ナク獨リ行政權ノ爲メニ阻礙ヲ受クルノミナラス同シク日本臣民ニシテ聖明ノ下均一ノ恩典ニ浴スル能ハサルモノアルニ至ルヘケレハナリ其寄留人ノ登記ニ就キ一言ヲ及ホサ、ルハ是レ非本籍人身分登記ノ大部分ハ寄留者ヲ以テ充填セラル、ヤ極メテ明瞭ニシテ別ニ之ヲ言明スルノ必要ナシト認めタルニ由ルナリ

### 第二十二條 登記ニハ第四章ノ規定ニ依リ届出、報告、申請若クハ

請求ヲ爲シ又ハ航海日誌ノ謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

證書ノ謄本ニ依リテ爲ス登記ニハ其謄本ニ記載シタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

裁判ニ依リテ爲ス登記ニハ其裁判ヲ以テ命セラレタル登記事項ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ハ登記記載ノ事項ヲ規定シタルモノナリ

登記記載ノ事項ハ本條ノ外尙第二十八條ニ規定スルモノ本條ハ其主要ナルモノニシテ第二十八條ハ附隨ノ事項タルニ過キサレナリ

本條ハ登記ノ原因ニヨリ其記載ノ事項ヲ異ニセリ以下之ヲ説明セントス

(一) 届出報告申請者クハ請求ヲ爲シ又ハ航海日誌ノ謄本ヲ受ケ

タルキ

第十五條第一號第二號第四號第五號ニ掲ケタル原因ニヨリ登記ヲ爲ス場合ニ屬ス而シテ届出報告申請者クハ請求ニ付テハ其原本記載ノ事項ハ學テ之ヲ身分登記簿ニ記載スルモノニシテ航海日誌ノ登記ヲ受タルキ亦悉ク其登記記載ノ事項ヲ記載スベキモノトス

(二) 證書ノ登記ニ依リテ爲ストキ

即チ第十五條第三號ノ原因ニヨリテ登記ヲ爲ス場合ニシテ其證書ノ登記ニ記載ノ事項ハ總テ之ヲ記載スヘキモノトス

(三) 裁判ニ依リテ爲ストキ

即チ第十五條第六號ノ場合ニ相當スルモノニシテ此場合ニハ其裁判全文ヲ記載スルニ及ハス裁判ノ主文ノ趣旨ニ基キ相當ノ事項ヲ記載スルモノトス例ヘハ何々身分届出ニ對シ登記ヲ拒ミタルハ不常

ナルヲ以テ更ニ之カ登記ヲ爲スヘシトノ趣旨ナルルハ疑キニ届出タル事項ヲ記載スヘキモノトス

**第二十三條** 登記ヲ爲スヘキ事實カ第四章第二節乃至第二十一節ニ掲ケタル届出事件ノ二箇以上ニ涉ルトキハ各別ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニハ各登記ニ付キ必要ナル事項ノミヲ記載シ各登記ノ欄外ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

本條ハ届出事件二個以上ニ涉ルルハ如何ニスヘキヤヲ規定セリ届出事件トハ第十五條第一號ニ掲クル届出及第二十二條第一項ニ掲クル届出ト云ヘル語ト其意義ヲ異ニシ登記ノ原因即チ第十五條ニ掲クル凡テノ場合ヲ云ヘルモノニシテ第四章第二節乃至第二十一節ニ規定スル所ノモノタリ而シテ届出事件ノ種類ハ第四章第二節

以下每節別種ノモノナレハ其記載モ第七條第二項ニ依リ種類ニ從ヒ其帳簿ヲ異ニスヘキモノナルカ故ニ一事件ノ届出報告其他ノ事由ニヨリ登記ヲ爲スヘキ事實カ甲届出事件ト乙届出事件トニ涉ルル即チ甲節ト乙節トニ關係スルルハ其何レニ記載スヘキヤ明ナラス本條第一項ハ此場合ニ於ケル記載ノ方法ヲ規定シタルモノナリ本條ハ登記スヘキ事實一個ナルニ拘ラス二個以上ノ届出事件ニ涉ルルハ各別ニ之ヲ登記スヘキモノナルコトヲ定メタリ例ヘハ養子縁組ノ届出ヲ爲シタルルハ同時ニ氏名族稱ノ變更ノ登記ヲ爲サ、ルヘカラサルカ如キ是ナリ

以上ノ場合ニ於テハ二者一事實ニ基クト雖モ其登記ノ要旨ハ全く相異ナレルヲ以テ只之ヲ一個ノ帳簿ニ記載スルニ止ムルルハ甲ニ於ケル身分ハ公證セラレタリト雖トモ乙ニ於ケル身分ハ依然舊態



ヲ存スルカ如キ奇觀ヲ呈スルニ至ルヘシ是レ各別ニ記載スルノ必要アル所以ナリ而シテ此場合ニ於ケル記載ノ方法ハ前條ノ例ニ依ラス全ク甲身分登記ト乙身分登記ト各其登記ニ必要ナル事項ノミヲ記載スルモノタリ例ヘハ前例ニ於ケル養子縁組ノ登記ニハ其縁組ヲ爲シタル事實ノミヲ登記シ氏ノ變更ノ登記ニハ氏變更ノ事項ノミヲ登記スルモノトス

以上各別ニ登記ヲ爲シタル片ハ其欄外ニ交互参照ノ符號ヲ付スルコトヲ要ス是レ各登記ノ一方ノミヲ見ル片ハ其登記原因ノ(第十五條不分明ナルヲ免レサルヲ以テ第十五條ニ依リ原因ナクシテ爲シタル登記ハ無効ナルカ故ニ各参照シテ始メテ完全ナル登記原因アルコトヲ証スルノ用ニ供シタルモノトス

### 第二十四條 登記取消ノ登記ハ取消ノ申請又ハ請求ノ目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ原登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

記ノ欄外ニ之ヲ爲シ原登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

本條ハ登記取消ノ方法ヲ規定セリ

登記取消ノ申請又ハ請求アリタルトキハ原登記ノ記載アル欄外ニ其申請又ハ請求ニ記載シタル事項ヲ登記シ而シテ原登記ハ之ヲ抹消スルモノトス茲ニ抹消ト云ヘルハ單ニ取消スニ止マリ全然塗抹スルノ意味ニアラサルコトハ第二十九條ニ於テ説明スヘシ

### 第二十五條 登記變更ノ登記ハ其目的タル登記ノ欄外ニ之ヲ爲シ且其申請ノ基本タル裁判ノ趣旨ニ從ヒテ原登記ヲ變更スルコトヲ要ス

本條ハ登記變更ノ方法ヲ規定セリ

本條ニ所謂登記變更ノ登記トハ第四章第廿一節ニ規定シタル身分登記變更ノ登記ナルコトヲ知ラサルヘカラス此場合ハ其變更セシ

トスル原登記ノ欄外ニ變更ニ係ル申請ノ事項ヲ記載シ且申請ノ基  
本トナリタル裁判ノ趣旨ニ基キ原登記ヲ變更セサルヘカラス  
本條ニ申請ノ基本トナリタル裁判トハ第六十七條及第六十八  
條ニ規定スル裁判ヲ云フ

第二十六條 本籍分明ナラサル者ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍  
カ分明ト爲リタル旨ノ届出又ハ報告アリタルトキハ原登記ノ欄  
外ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

本籍分明ト爲リタル者カ本籍人ナリシトキハ前項ノ規定ニ依ラ  
ス更ニ本籍人身分登記簿ニ登記ヲ爲シ其登記及ヒ前登記ノ欄外  
ニ交互參看ノ符號ヲ附記スルコトヲ要ス

前二項ノ登記ヲ爲シタル後其者ノ本籍ニ付キ更ニ届出又ハ報告  
アリタルトキハ届出又ハ報告アリタルコト及ヒ其年月日ヲ登記

ノ欄外ニ記載スルヲ以テ是ル

本條ハ本籍分明ナラサル者ノ登記ヲ爲シタル後其本籍分明トナリ  
タルキノ登記ノ方式ヲ規定セリ

本籍分明ナラサル者ノ身分登記ハ非本籍人身分登記簿ニ登記スヘ  
キモノナルコトハ前述タル所ナリ而シテ其本籍分明トナリタルキ其  
被登記者カ本籍人ナリシ場合ト然ラサル場合トニ依リテ區別セリ、

(一) 被登記者ノ本籍人ニアラサリシトキ

本籍カ分明トナリタル旨ノ届出又ハ報告アリタルトキハ原登記ノ  
欄外ニ其届出又ハ報告ニ記載シタル事項ヲ登記スルモノトス

(二) 被登記者本籍人ナリシトキ

此場合ハ更ニ本籍人身分登記簿ニ非本籍人身分登記簿記載ノ事項  
ヲ轉載シ而シテ其登記ト非本籍人身分登記簿ニ記載ノ登記ト交互

對照スヘキ符號ヲ附記スヘキモノトス  
以上二個ノ場合ニ於ケル登記ヲ爲シタル後其本籍ニ付キ更ニ届出  
又ハ報告アリタルトキハ其届出アリタルト其年月日ヲ(一)ノ場合  
即チ元來他ニ本籍ヲ有スル其本籍地ノ誤謬又ハ更ニ他へ轉籍シ  
タル如キトキハ前登記ノ欄外へ(二)ノ場合即チ現ニ本籍人ナルモ他  
ニ轉籍シタル如キトキハ後ノ登記ノ欄外へ記載シ以テ其異動ヲ明  
瞭ナラシムルモノトス

### 第二十七條

日本ノ國籍ヲ失ヒタル者カ國籍喪失ノ届出ヲ爲ササ  
リシトキハ戶籍吏ハ戶籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許  
可ヲ得テ國籍喪失ノ登記ヲ爲コトヲ要ス

本條ハ國籍喪失ノ登記ノ手續ヲ規定セリ

國籍トハ日本人タルノ分限ヲ有スルノ云ヒナリ故ニ其日本入タル

ノ分限ヲ失フタルモノハ即チ國籍喪失者タリトス我國未タ國籍法  
ノ規定ナキヲ以テ如何ナル場合ニ國籍ヲ失フヤヲ明言スガ能ハス  
ト雖モ國籍法草案及國際法ノ原理ヲ參酌セハ概テ左ノ場合ニ在ル  
モノタルコトハ敢テ夢想ニ非ラサルヲ信スルナリ

第一任意ニ外國ノ民籍ニ入りタルモノ

滞在國ノ法律ニ依リ本國民ト見做サレタルモノハ尙日本人タルニ  
背カス只任意ニ外國ノ民籍ニ入りタル者ヲ云フ

(一) 外國ニ歸化シタル者

(二) 日本人ニ嫁シタル外國婦人カ婚姻解消ノ後日本國ヲ去リ  
タルトキ

(三) 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ノ妻又ハ子カ父又ハ夫ノ屬スル  
國籍ヲ取得シタルトキ

第二 政府ノ允許ナクシテ外國政府ノ官職ヲ受ケタルトキ

第三 日本ノ女外國人ト婚姻シタルトキ

第四 日本人タル子カ父ノ認知ナクシテ外國ノ國籍ヲ取得シタルトキ

是ナリトス尙他日國籍法ノ發布セラル、ヲ待チテ其詳細ヲ知ルヲ得ヘシ

而シテ右國籍ヲ失フタルモノヨリ届出ヲ爲シタル片ハ其届出ニ基キテ登記ヲ爲スヘキハ當然ノ順序タリト雖モ第一ノ(一)及第二ニ掲ゲタル場合ニ於テハ自カラ之ヲ爲スハ良心ノ許サ、ルモノナルヘキノミナラス其他諸種ノ場合ニ於テモ往々届出サ、ルモノアルヘシ然レモ永遠之ヲ默過スヘカラサル事体ナルヲ以テ此場合ニ當リテハ管轄區裁判ノ許可ヲ得テ登記ヲ爲スヘキモノトス

其區裁判所ノ許可ヲ得ヘキモノトナシタルハ國籍喪失ノ如キハ公益ニ關スルコト重大ニシテ戶籍吏ノ想像ニ一任スヘカラサルハ勿論殊ニ登記ハ原因ナクシテ之ヲ爲スヘカラサルコトハ既ニ第十五條ニ明示セル所タリ故ニ此場合ニハ特ニ區裁判所ノ許可ヲ得ヘキモノトナシタリ若シ夫レ之カ許可ヲ得スシテ登記ヲ爲サンカ其無効タルヤ言ヲ俟タサルナリ

第二十八條 登記ニハ第二十二條ニ規定シタルモノ、外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 届出又ハ申請ノ受附ヘ年月日但他ノ戶籍吏又ハ官廳ヨリ届書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ發送者ノ官職、氏名及ヒ發送ノ年月日ヲ併記スルコトヲ要ス
- 二 報告又ハ請求ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ報告者又ハ請

### 求者ノ官職、氏名

三 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ發送及ヒ受附ノ年月日並ニ證書又ハ航海日誌ノ作製者及ヒ謄本發送者ノ官職、氏名

四 登記ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所ノ名

本條ハ登記スヘキ附隨ノ事項ヲ規定セリ

登記ノ主要ナル記載ハ第二十二條ノ規定スル所ニシテ既ニ之ヲ説明セリ本條ニ於テハ附隨ノ事項ニ付規定ヲ爲シタリ左ニ之カ説明ヲ爲スヘシ

第一 届出又ハ申請ノ場合 此場合ニ於ケル記載事項左ノ如シ

(一) 届出又ハ申請受付ノ年月日

日付ハ事實ヲ明確ナラシムル爲メノ證據トナルモノニシテ例ヘハ被登記者ノ身分カ届出又ハ申請受付ノ年月日ヨリモ後ニ取得シタ

ルモノナルハ其登記ハ全ク無効ノモノタルヘシ故ニ登記ノ事實ノ正當ナルヤ否ヤヲ知ルハ此届出又ハ申請ノ受付年月日ニ依テ見ルハキモノタレバナリ

(二) 他ノ戸籍吏又ハ官廳ヨリ登記ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於

テハ受付年月日ノ外發送者ノ官職氏名及發送ノ年月日ヲ併記スルコト

是レ發送者カ正當ノ官廳ナリシヤ又其取扱タル人物ハ其當時相當ノ官職ニ在リタルヤヲ明カニシ事實ノ正確ヲ保障センカ爲メニ設ケラレタル規定ナリト云フヘシ

第二 報告又ハ請求ニ依ル登記ノ場合、此場合ハ左ノ事項ヲ登記スルモノトス

(イ) 發送ノ年月日 是レ後日ニ於テ發送ノ當時既ニ登記スヘ

キ事實アリタルヤ否ヤノ疑アリタルル片之ヲ證スルノ材料トナルモノタリ

(ロ) 受付ノ年月日 發送ノ年月日ヲ記スルモ受付ノ年月日ヲ記セザレハ發送後受付ノ日マテニ生シタル身分ノ變更アル場合ニ於テ其何レノ登記カ有効ナルヤヲ知ルニ由ナシ是レ此規定アル所以ナリ

(ハ) 報告者又ハ請求者ノ官職氏名

報告者又ハ請求者カ報告又ハ請求ノ當時其職ニ有リタルヤ否ヤヲ明カニスルト同時ニ其責任ノ歸屬者ヲ明カニスルカ爲メナリ

第三 証書又ハ航海日誌ノ謄本ヲ受ケタルル片 此場合ハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス

(イ) 發送ノ年月日

發送ノ年月日ヲ記載スルハ前同一ノ理由ニ基クモノナリ、

(ロ) 受付ノ年月日 (説明ヲ要セス)

証書又ハ航海日誌ノ作製者ノ官職氏名

(ハ) 戸籍吏ニ証書又ハ航海日誌ヲ差出スハ原本ニアラスシテ謄本ナルカ故ニ謄本作製者ト謄本發送者ト其人ノ異ナルコトアルベシ而シテ原本ト謄本トノ間ニ差異アリテ後日事實ニ疑團ヲ生スル場合ニ於テハ其何レヲ正確ナリトスルヤヲ決シ及其誤謬ヲ來シタル責任者ノ誰ナルヤヲ知ルノ用トナルモノトス

(ニ) 謄本發送者ノ官職氏名 (説明ヲ要セス)

第四 裁判ニヨリ登記ヲ爲ス場合

此場合ニハ左ノ事項ヲ記載ス

(イ) 登記ヲ命シタル裁判ノ年月日 是レ實際裁判アリタルヤ否  
ヤ又如何ナル裁判ナリシヤニ付疑アル片後日之ヲ証スルニ  
就テノ必要アレバナリ

(ロ) 登記ヲ命シタル裁判所 是レ管轄裁判所ナリシヤ否ヤノ疑  
ヲ生スルヲ防キ且其責任ヲ明カニス

以上要スルニ事實ノ正確ヲ明シ又後日ノ疑惑ヲ防止スルニ基因  
セルモノナリトス

### 第二十九條

登記ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用井ス字畫明瞭ナル  
コトヲ要ス

年月日時及ヒ年齢ヲ記スル數字ニハ一二三ノ字ヲ用井スシテ  
壹貳參拾ノ字ヲ用ユルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スコトヲ得ス若シ訂正、挿入又ハ削除ヲ爲シタ  
ルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ戸  
籍吏之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字  
體ヲ存スルコトヲ要ス

本條ハ登記上使用スヘキ文字ニ制限ヲ附シタル規定ナリ

登記ノ事タル各人ノ身分上ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナルコト  
ハ前屢述ベタル所ナリ登記ハ如斯重大ナルモノナルヲ以テ之ニ用  
ユヘキ文字及數字ハ極メテ明瞭ナルヲ要シ且變造ヲ避ケ易キモノ  
ナラサルヘカラス是ヲ以テ本條第一項ニハ略字又ハ符號ヲ用ヒス  
字畫明瞭ナルコトヲ要スト規定シタルバ決シテ略字又ハ符號ヲ用  
ヒ又ハ字畫不明瞭ナル記載ヲ爲スヘカラス若シ之ニ背キタルトキ  
ハ其事項ニ限り無効タルハ勿論尙ホ損害アリタル片ハ戸籍吏ハ賠

償ノ責ニ任セサルヘカラス要スルニ文字ハ最モ注意ヲ要スナリ  
本條ニ符號トアルハ前數條ニ於テ散見スル交互參看ノ符號ニアラ  
ス文字ヲ以テ記載スヘキ場合ニ符號ヲ用ユルコトヲ得スト云フノ  
義ナリト解スヘキナリ

其他年月日及年齢ヲ記スル場合ニハ一二三十等ノ字ヲ用非スシテ  
壹貳參拾等ノ字ヲ用ユヘキモノトセルハ一二三十等ノ數字ノ如キ  
ハ之ヲ改竄スルニ易ク又往々誤謬ヲ招クノ恐レアルヲ以テナリ是  
レ第二項ノ定ムル所ナリ

文字ヲ改竄シ又ハ訂正挿入若クハ削除スルトキハ原文ノ意義ヲ變  
更スルコトアルヲ以テ此重大ナル身分登記ニ於テハ敢テ輕忽ニ取捨  
スヘカラサルヤ言ヲ俟タス然レモ時ニ原文ヲ變更スルノ必要ニ迫  
ラル、ナキ能ハス此場合ニ於テモ文字ヲ改竄スルハ之ヲ許サ、ル

ナリ何トナレハ若シ全ク文字ヲ改竄スルトキハ後日異議アルニ當  
リ改竄前ノ文字ハ遂ニ之ヲ知ルニ由ナク頗ル裁斷ニ苦シマシムルヲ  
得サル場合之レアルヘケレハナリ故ニ文字ヲ改竄スルコトハ登記  
記載ノ上ニ於テ絶對的之ヲ許サス只左ノ方法ニ依リテ之ヲ更改ス  
ルヲ得セシムルノミ

(一) 文字ヲ訂正スルコト

文字ヲ訂正スルニハ原文ノ右側ニ訂正スヘキ文字ヲ書シ其文字  
ノ前後ニ括弧ヲ附シ原文文字ニハ二條若クハ三條ノ直線ヲ施シ尙明  
瞭ニ誦讀シ得ヘカラシメ且其字數ヲ欄外ニ記載スルヲ要ス

(二) 文字ヲ挿入スルコト

此場合ニ於テモ亦其文字ヲ原文ノ右側ニ加ヘ前後ニ括弧ヲ附シ欄  
外ニ其字數ヲ記スルモノトス而シテ挿入ニ係ル文字ハ原文ノ何レ



ノ文字ニ繼クヘキヤヲ明カニセサルヘカラス

(三) 文字ヲ削除スルコト

此場合ニ於テハ其削除シタル文字ハ尙讀ミ得ヘキ爲メ字体ヲ存シ尙欄外ニ削除ニ係ル字數ヲ記載スルコトヲ要ス以上訂正挿入又ハ削除ヲナシタルトキハ其訂正挿入削除ニ係ル文字及ヒ欄外ノ記入ニハ一々戸籍吏之ニ認印スヘキモノトス是レ其責任ヲ明カニスルト同時ニ其訂正挿入又ハ削除ノ誤ナキヲ證スルモノナリトス

**第三十條** 登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外日次ヲ逐ヒ事件受附ノ順序ニ從ヒテ之ヲ爲シ一事件毎ニ番號ヲ附シ用紙ニ空行ヲ存セス前後ノ登記ヲ接續セシムルコトヲ要ス

本條ハ登記ノ順序ヲ規定シタルモノナリ

登記ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外日次ヲ逐ヒ事件受付ノ順序

ニ從ヒテ之ヲナスヘキモノトス是レ受付ノ順序ハ即チ登記ヲ受クヘキ權利ノ順序ニシテ若シ此順序ニ依ラサルキハ其權利ヲ害スルコトアルヘケレハナリ然レモ特別ノ規定アル場合ハ此順序ニ依ラサルコトアリ例ヘハ登記取消ノ登記、登記變更ノ登記ノ如キハ第廿四條第二十五條ニ依リ原登記ノ欄外ニ之ヲナスヘキモノタレハナリ又登記ハ一事件毎ニ番號ヲ付スルモノトス是レ登記ノ順序ハ法律ニ依リ正確ニ登記シタルモノナルコトヲ證シ以テ前後轉換又ハ毀損ノ憂ヒナカラシムルカ爲メナリ以上登記ヲナシタルトキハ前登記ト後登記トノ間用紙ニ空行ヲ存スルコトナク相接續スルコトヲ要スルモノトス蓋シ空行ヲ存スルトキハ後ニ之ニ記入ヲナスノ恐レアレハナリ

**第三十一條** 戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ其文末ニ認印スルコト

ヲ要ス

本條ハ登記ノ文末ニ認印ヲナスヘキヲ規定セリ  
登記ハ公證ニシテ人ノ身分上ニ重大ナル關係ヲ有スルヤ曾テ之ヲ  
説キタル所ナリ而シテ一字一句ト雖モ極メテ鄭重ヲ要スヘキモノ  
ナルヲモ亦々屢之ヲ述ベタリ故ニ其文末ニ記入ヲナシ又ハ末文ヲ  
削リ去ラル、等ノ事アランニハ被登記者ニ及ホス影響實ニ計ルヘ  
カラサルモノアルヘシ故ニ登記ノ文末ニ認印ヲナシ以テ記載ノ正  
確ヲ期セシメタリ

第三十二條

欄外登記ヲ爲スヘキ場合ニ於テ用紙ニ餘白ナキトキ  
ハ掛紙ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得此場合ニ於テハ戸籍吏ハ職印  
ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ欄外登記ヲナスニ當リ用紙ニ餘白ナキ場合ノ規定ヲナセリ

欄外登記ヲナスヘキ場合ハ本法ニ於テ數多規定スル所アリ而シテ  
欄外登記ハ欄内登記ト相俟テ効力ヲ有スルモノナレハ其登記ノ繁  
多ナル場合ニ於テハ往々余白ナキニ至ルコトアリ此場合ニ於テハ  
本紙ニ紙片ヲ貼付シ之ニ欄外登記ノ事項ヲ登記シ而テ其掛紙ト本  
紙トニ職印ヲ以テ契印ヲナスヘキモノトス是レ此契印ヲナスハ掛  
紙ヲ取換ヘラル、コトヲ防ク爲メノモノタルナリ

第三十三條

被登記者ノ本籍カ届出ニ因リテ戸籍吏ノ管轄ヨリ他  
ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ於テハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタ  
ル後遲滞ナク届書ノ正本ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要  
ス

被登記者ノ本籍カ他ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬ス  
ル場合ニ於テハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ副本

ナ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

本條ハ届出ニヨリ管轄ニ變動アル場合ニ於ケル登記後ノ手續ヲ規定セリ

登記ニヨリ管轄ニ變更ヲ生スルキハ前管轄ノ戸籍吏モ新管轄ノ戸籍吏モ共ニ其登記ヲ爲サ、ルヘカラス然ラサレハ一人ノ身分ニ關シ二個ノ登記アルノ奇觀ヲ現スルニ至ルコトアルヘシ是ヲ以テ被登記者カ何レカ一方ノ戸籍吏ニ本籍變更ノ届出ヲ爲スニハ其届書ハ正副二通ヲ差出スヘキモノニシテ其一通ハ届出地ノ戸籍吏ヨリ他ノ一方ノ戸籍吏ニ送付スルモノトス而シテ其届出ヲ受ケタル戸籍吏ノ將來管轄ヲ有スル場合ト之ニ依リテ其管轄ヲ離ル、場合トニヨリ各其規定ヲ異ニセリ以下之ヲ説明スヘシ

第一被登記人ノ本籍カ届出ニ因リテ其戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍

吏ノ管轄ニ轉屬スル場合

例ヘハ女子カ婚姻ノ登記ヲ實家ノ管轄戸籍吏ニ届出タル場合ノ如キハ將來其戸籍吏ノ管轄ヲ離レテ婚家ヲ管轄スル戸籍吏ニ轉屬スルモノナリ此場合ニ於テハ届出ヲ受タル戸籍吏ハ其登記簿ニ登記ヲ爲シタル後副本ヲ保存シ正本ハ之ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要スルナリ

副本ヲ保存シ正本ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付スル所以ノモノハ將來ノ身分登記ノ事ハ新管轄ノ戸籍吏ニ屬シ且ツ此場合ノ登記ハ後ノ登記ノ基本トナルヘキモノナルヲ以テナリ

第二被登記者ノ本籍カ他ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ其戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合

例ヘハ前例ニ於テ婚家ノ管轄戸籍吏ニ届出ヲ爲シタル場合ノ如シ

此場合ニ於テハ其届出ノ副本ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付スルモノト  
ス是前ノ場合ト全ク反對ニシテ其登記ヲ爲シタル戸籍吏ハ將來管  
轄ヲ有スルモノナレハ從テ他ノ戸籍吏ニ送付スル届出ハ副本ヲ以  
テスヘキナリ是亦前ノ場合ト同一理由ニ出ツルモノタレハナリ  
本條ニ遲滯ナク届出ノ正本副本ヲ送付スヘキヲ定メタルハ若シ  
其登記ニシテ不實ノ身分登記タリシキハ其不法ナルニモ拘ハラス  
之ヲ多時留存スルノ嫌アルカ故ニ速カニ其登記ノ正否ヲ確定スル  
ヲ望ムノ主旨ナリトス然レモ登記事務ハ雜駁極マリナク時ニ繁閑  
アレハ豫メ法律ヲ以テ其期間ヲ限定スルヲ得ズ其當時戸籍役場ノ  
事情ニヨリ可及的速ニ送付スヘシト云フノ意ト解スヘキナリ

### 第三十四條

被登記者ノ本籍カ届出ヲ受ケタル戸籍吏ノ管轄以外

於テ一ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合ニ

於テハ其届出ヲ受ケタル戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滯ナク届  
書正本ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送付シ其副本ノ一通ヲ舊管轄ノ戸籍  
吏ニ送付スルコトヲ要ス

本條ハ非本籍人ノ身分登記届出ニヨリ本籍ノ管轄異動アル場合ニ  
於ケル登記後ノ手續ヲ規定セリ

被登記者ハ本籍以外ノ地即チ非本籍地ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ得ル  
コトハ前述タル所ナルヲ以テ隨テ本籍ニ異動ヲ來スヘキ届出ヲ爲シ  
得ルハ勿論ナリ此場合ニ於ケル届書ハ正本一通副本二通ヲ差出ス  
モノニシテ其届出ヲ受ケタル戸籍吏ハ非本籍人身分登記簿ニ之カ  
登記ヲ爲シ而シテ後正本ハ之ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送附シ副本一通  
ハ之ヲ舊本籍地ノ戸籍吏ニ送付シ殘ル副本一通ハ之ヲ保存スルモ  
ノトス

戸籍吏カ副本一通ヲ保存スルハ其届出アリタルコトヲ後日ニ證スルノ用ニ供スルモノナリ若シ之ヲ保存セサルニ於テハ登記ノ原因ヲ證スルニ由ナク自ラ爲シタル登記ハ原因ナキモノトシテ遂ニ之カ責任ヲ受クルノ止ムヲ得サルノ場合ヲ生スルコトナキヲ保セス是レ此規定アル所以ナリ其正本ヲ新管轄ノ戸籍吏ニ送り副本一通ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送ル所以ハ前條ヲ參照セハ思半ニ過クルモノアラシ

### 第三十五條 前二條ノ場合ヲ除ク外被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ屬セサルトキハ戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ

正本ヲ管轄戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

本條ハ一般非本籍人カ身分登記ヲ届出タルニ由リ登記ヲ爲シタル後ノ手續ヲ規定セリ

本籍ニアラサル地ニ於テ身分届出ヲ爲スモノハ正副二通ノ届書ヲ差出スヘキコトハ第四十二條第二項ニ規定セルヲ以テ後ニ至リ同條ニ就テ説明スル所アルヘシ

本條ニ於テハ只二通ノ届書ヲ要スルモノナルコトヲ知得スレハ足ルナリ而シテ戸籍吏ハ之ニ依テ登記ヲ爲シタル後ハ副本ヲ保存シ正本ハ之ヲ本籍地ノ戸籍吏ニ送付スルモノトス其副本ヲ保存シ正本ヲ本籍地ニ送付スル所以ハ前ニ述ヘタルト同一ノ理由ナルヲ以テ亦茲ニ之ヲ贊セス

### 第三十六條 第三十三條及ヒ第三十四條ノ規定ハ届出以外ノ事由

ニ因リ被登記者ノ本籍カ移轉スル場合ニ之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ戸籍吏ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作り其謄本ヲ以テ届書ノ副本ニ代フルコトヲ要ス届出以外ノ事由ニ因

リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者ノ本籍カ戸籍吏ノ管轄ニ  
屬セサルトキ亦同シ

本條ハ第三十三條第三十四條ノ規定ハ届出以外ノ事由ニヨル本籍  
移轉ノ場合ニモ之ヲ準用スルコトヲ規定セリ

届出以外ノ事由トハ第十五條第二號乃至第六號ニ規定セル各登記  
ノ原因ヲ云フ此等ノ事由ニヨリ登記ヲ爲ス場合ト雖モ管轄ニ異動  
ヲ生スルコトアルヘキハ更ニ言フ俟タス然レモ届出ノ場合ニ於テハ  
届出人ハ常ニ被登記者ノ本籍届出人ト被登記者トハ同人ナルコト  
アリ別人ナルコトアリニ異動アリヤ否ヤヲ熟知セルヲ以テ本籍カ管轄  
ヲ變動スル登記ヲ爲サントスルキハ其届書ハ常ニ正副二本ヲ差出  
スヘキモノニシテ其副本ハ必要ニ應シテ敷通ヲ差出サシムルコト  
ヲ得ヘシト雖モ届出以外ノ場合ニ於テハ本人又ハ其代人ヨリ爲シ

タルニアラザレハ其手續ハ之ヲ戸籍吏ニ一任シ其必要ニ應シ勝手  
等作製ノ義務ヲ負ハシメタリ故ニ戸籍吏ハ其登記ヲ爲シタル後左  
ノ手續ヲ爲スモノトス

第一 届出以外ノ事由ニヨリ被登記者ノ本籍カ移轉スル場合

此場合ハ又左ノ二個ノ場合ヲ包含ス

(一) 其戸籍吏ノ管轄以外ニ於テ甲戸籍吏ノ管轄ヨリ乙戸籍吏  
ノ管轄ヘ移轉スル場合

例ヘハ本籍ニアラサル地即チ非本籍地ニ於テ婚姻ノ登記取消ノ申  
請ヲ爲シタル場合ノ如シ

(二) 他ノ戸籍吏ノ管轄ヨリ其戸籍吏ノ管轄ニ轉屬スル場合  
例ヘハ其戸籍吏ノ管轄地内ニ本籍ヲ有スル男子カ外國ニ於テ其戸  
籍吏ノ管轄以外ニ本籍ヲ有スル女子ヲ娶リテ妻ト爲シタル旨ノ證

書ノ謄本ノ送付ヲ受ケタル場合ノ如シ

以上ノ場合ニ於テハ戸籍吏ハ其受付タル書面ノ謄本ヲ作り之ヲ以テ届書ノ副本ニ代ユルコトヲ要ス即前(一)ノ場合ニ於テハ謄本二通ヲ作り一通ハ之ヲ保存シ一通ハ舊管轄ノ戸籍吏ニ送り而シテ受付タル書面ハ新管轄ノ戸籍吏ニ送ルモノタリ(二)ノ場合ニ於テハ謄本一通ヲ作り之ヲ舊管轄ノ戸籍吏ニ送付シ而シテ受付タル書面ハ之ヲ保存スルモノトス

第二 届出以外ノ事由ニヨリ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ被登記者

ノ本籍カ其戸籍吏ノ管轄ヲ離レタル場合

例ヘハ戸籍吏ノ管轄内ニテ養子縁組ヲ爲シタル者アリシニ他日其登記取消ノ申請ヲ爲シタル場合ノ如シ此場合ニ於テハ其受付タル書面ノ謄本ヲ作り之ヲ保存シ原本ハ新管轄ノ戸籍吏ニ送付スルモノトス

### 第三十七條

登記ヲ爲シタルトキハ届書其他登記ニ關シテ受附ケタル書類ニ登記ノ番號及ヒ年月日ヲ記載シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ之ヲ編綴シ且之ニ目錄ヲ附スルコトヲ要ス

本條ハ登記後届書其他登記ニ關シテ受付タル書類ノ處分ノ方法ヲ規定セリ

第十五條第一號乃至第六號ニ掲ケタル届書其他ノ書類ハ緊要ナルモノナルコトハ今茲ニ説明ヲ要セスシテ明カナリ此等ノ書類ノミナラス其他登記ニ關シテ受付タル書類例ヘハ届書ノ謄本等ノ如シハ之ニ登記番號及登記ヲ爲シタル年月日ヲ記シ登記簿ノ區別ニ從テ編綴スヘキモノトス  
而シテ此等ノ書類ノ處分ヲ命シタルハ其登記ノ事由ヲ後日ニ證ス

ル爲メノ趣旨ニ出タルモノナレハ當ニ受付タル書類ニノミ限ラス  
前條ニ從テ戸籍吏自ラ作りタル書類ノ如キモ包含スルモノタルヘ  
シ本條ニ於テ受付タル書類トアルハ用語稍不穩當ナルノ嫌ナキニ  
アラスト雖モ要スルニ登記ノ事由トナリタル書類ト解釋スヘキモ  
ノタルヘシ登記ノ番號及年月日ヲ記スルハ登記簿記載ノ事實ト其  
登記ノ事由ト相對照スルノ便ニ供セシムルモノニシテ若シ登記ノ  
事實ニ就キ異議アル等必要ノ場合ニ當リ照查シ易スカラシメタル  
ニ外ナラサルナリ又登記簿ノ區別ニ從ヒ各別ニ編綴スヘシトアル  
ハ第七條ニ依リ編綴シタル各種ノ簿冊ニ就テ本籍人身分登記簿又  
ハ非本籍人身分登記簿其他事件ノ種別ニ從ヒ各當該簿冊ニ添綴セ  
サルヘカラサルモノトス其日録ヲ付スル所以ノモノハ單ニ索引ノ  
爲メナレハ每綴之ヲ添付スルコトヲ要ス而シテ之ニ表紙ヲ付シ種別

ヲ標記スヘキヤ言ヲ娛タサルナリ

第三十八條 前條ノ書類ハ一个月毎ニ遲滯ナク之ヲ監督區裁判所  
ニ送付シ監督區裁判所ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス  
書類ヲ保存スヘキ期間ハ司法大臣之ヲ定ム

本條ハ前條ノ書類ノ保管ノ事ヲ規定セリ

前條ニ依リ編綴シタル書類ハ之ヲ監督區裁判所ニ於テ保存スルモ  
ノナリ蓋シ前條ノ書類ハ登記ノ事由トナリタルモノナルヲ以テ極  
メテ緊要ノモノナレハ登記簿ハ其保存者ヲ異ニシ一ハ増減變更等  
ヲ爲スノ憂ヲ防止シ併セテ事變等ノ爲メ登記簿ト共ニ滅失毀損ス  
ルカ如キ奇禍ニ罹リ他日復タ其材料ヲ收拾スル能ハサルニ至ラシ  
メサランコトヲ慮カリタルニ由ルナリ  
前條ノ書類ハ一ヶ月毎ニ之ヲ監督區裁判所ニ送付スルモノトス而



テ是レカ送付ヲ爲ス所以ノモノハ前述ノ理由ナルヲ以テ登記ヲナシタル後速カニ之ヲ送付スルハ元ヨリ謄ム所ナリト雖モ毎事逐一之ヲ送付スルカ如キハ却テ煩雜ニ失シ其煩ニ堪ヘサルヲ恐レ一ヶ月毎ニ之ヲ送付スルモノトセルナリ蓋シ其期間長短其宜シキヲ得タルモノト云フヘシ

監督區裁判所ニ於テ右書類ヲ保存スヘキ期間ハ法律ニ於テ之カ規定ヲ爲サス司法大臣ノ命令ニ一任セリ蓋此期間ノ如キハ土地ノ狀況事務ノ繁閑事件ノ多寡等時ト場合トニ依リ異同アルヘキヲ以テ永久的存在一定不變ノ性質ヲ有スル法律ヲ以テ之ヲ規定スルハ膠柱彈琴ノ嫌アルヲ免カレス便宜命令ヲ以テ之ヲ定ムルノ寧ロ機宜ニ適シタリト認メタル由ルナリ

### 第三十九條 戸籍吏ハ登記ヲ爲シタル毎ニ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ遲滞ナク其全文ヲ登記簿ノ副本ニ謄寫スルコトヲ要ス

登記簿ノ副本ヲ地方裁判所ニ送付シタル後欄外登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ戸籍吏ハ遲滞ナク其登記ノ謄本ヲ作り職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ之ヲ地方裁判所ニ送付スルコトヲ要ス  
地方裁判所長ハ前項ノ規定ニ依リ送付ヲ受ケタル登記ノ謄本ヲ登記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ貼付シ職印ヲ以テ謄本ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ登記簿ノ副本ニ謄寫スヘキ方式ヲ規定セリ  
戸籍吏カ登記ヲ爲シタルトキハ毎事件ニ付キ登記ヲ爲スト同一ノ手續ニ依リ正本ノ全文ヲ副本ニ謄寫セサルヘカラス其登記ヲ爲シタル毎ニ之ヲ副本ニ謄寫スルハ正本ト副本ハ登記ノ前後字句ニ至ルマテ悉ク同様ナラサルヘカラサルニ由ル若シ事件毎ニ正本登記

ノ後直ニ副本ニ謄寫ヲ爲サ、ルトキハ其前後ノ錯雜スルコトアル  
ヘキノミナラス時ニ誤謬ヲ生スルコトアルヘケレハナリ況ンヤ戸  
籍吏轉變アリテ遂ニ之カ謄寫ヲ遺脱スルコトナキヲ保セサルニ於  
テヲヤ是レ遲滯ナク謄寫スルノ必要ナル所以ナリトス

登記簿ノ副本ハ欄内ノ登記終結シテ用紙ヲ余サ、ルニ至リタル片  
ハ速ニ管轄地方裁判所ニ納付スヘキモノナルコトハ第十一條ニ規定  
セリ若シ其納付ノ後正本ニ欄外登記ヲ爲シタル片ハ同時ニ之カ謄  
本ヲ作り其地方裁判所ニ納付スルモノトス而シテ其謄本ニハ職氏  
名ヲ署シ職印ヲ押シ以テ其誤謬ナキヲ證スルコトヲ要ス  
地方裁判所長ハ前述タル手續ニ依リ謄本ノ送付ヲ受ケタル片ハ登  
記簿ノ副本中相當登記ノ欄外ニ之ヲ貼付シ謄本ト本紙トノ間ノ職  
印ヲ以テ契印ヲ爲スヘシ是亦其誤リナキヲ證スルニ外ナラサルナ

#### 第四十條

登記ヲ爲シタル後其登記ニ付キ錯誤又ハ遺漏アルコト  
ヲ發見シタルトキハ戸籍吏ハ遲滯ナク之ヲ届出人又ハ登記事件  
ノ本人ニ通知スルコトヲ要ス

本條ハ登記ニ付錯誤又ハ遺漏ヲ發見シタル場合ノ規定ナリ  
登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタル片ハ其錯誤遺漏ハ之カ訂  
正挿入又ハ消除スヘキモノタルコトハ既ニ陳ベタル所ナリ而シテ  
訂正挿入又ハ消除ハ第二十九條ノ規定ニ從ヒ己カ手續ヲ完了スヘ  
ク只錯誤遺漏アリタルニ依リ訂正挿入又ハ消除シタル旨ヲ届出人  
又ハ登記事件ノ本人ニ通知スルコトヲ要ス  
本條ニ錯誤又ハ遺漏ト云ヘルハ届書其他登記ノ事由ニ錯誤又遺漏  
アリタル場合ヲ云フニアラス此場合ハ第六十七條ノ規定スル所ニ

シテ本條ハ單ニ登記ニノミ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ヲ云ヘルモノト知ルヘシ

本條ニ届出人又ハ登記ノ本人ト云ヘルハ届出人ト登記ノ本人トハ別人ナルコトアルヘシ然レモ其登記ノ錯誤又ハ遺漏ニ就キ共ニ其利害ヲ受クル場合アルヲ以テ何レカ其一人ニ訂正挿入又ハ消除ヲ爲シタルコトヲ通知スヘキ者トナシタリ

又登記ノ本人ト云ヘルハ被登記者ノ事ヲ指シタルモノナリト雖モ本條ノ場合ニ登記セラレタルニアラサレハ被登記者ナル語ハ穩當ナラサルヲ以テ故ラニ登記ノ本人ナル語ヲ用ヒタルモノナリ

第四十一條 戸籍吏ハ每年末ニ於テ最終登記ノ次行ニ終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ最終登記ヲ爲ス前登記簿ノ用紙ヲ用井盡シタル場

合ニ之ヲ準用ス

本條ハ登記簿終結ノ場合ヲ規定セリ

身分登記簿ハ每年末之ヲ終局スルモノナルコトハ第六條ノ規定スル所ナリ而シテ其年末ニ於テ最終ノ登記ヲ爲スト共ニ其次行ニ終結ノ旨ヲ記シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルモノトス是レ余白アルトキハ之ニ追加ヲ爲ス等ノ憂アルヲ以テナリ其職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルハ正當ノ手續ニヨリ終結シタルコトヲ證スルモノナリ年末ニ至ラスト雖トモ登記簿ハ事件ノ繁多ナルニ於テハ用紙ヲ用井盡スコトアリ此場合ニ於テモ亦前述タルト同様終結ノ旨ヲ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺スルモノトス其最終ノ登記ノ後尙數行又ハ十數行ノ餘白アル場合ト雖トモ現ニ登記ス可キ順位ノ登記事由ニシテ其餘白へ登記スルニ餘リアル場合ニ於テモ其餘白ハ其順

位ニアラサル他ノ短簡ナル登記事由ヲ登記スルヲ得ス餘白ノ初行  
即チ前登記ノ次行へ終結ノ旨ヲ記シ其餘白ハ全ク使用スヘカラサ  
ルモノタリトス

#### 第四章 身分ニ關スル届出

身分登記ハ何ニ因テ之ヲ爲スヤ是レ第十五條ノ規定スル所ナリ本章  
ハ即第十五條第一號以下第五號ニ至ル登記事由ノ登記セラルヘキ根  
源ニ就テノ手續ヲ規定セルモノタリ  
凡ソ身分登記ハ登記スヘキ身分上ノ事實アリテ其事實ニ因テ登記ヲ  
爲スヘキ材料即登記事由ヲ提供シ得ヘキモノニシテ戸籍吏ハ之ニ依  
テ登記ヲ爲シ始メテ完全ナル登記ノ効力ヲ有スルニ至ルモノトス本  
章ハ登記ヲ爲スヘキ材料即チ登記ノ事由ヲ提供スル手續ヲ規定シタ

ルモノナリ

本章題シテ身分ニ關スル届出ト云フ之レ身分届書即第十五條第一號  
ニ掲ケタル場合ノミヲ指シタルカ如シト雖トモ本章第二節以下ヲ玩  
味スルトキハ其然ルニアラスシテ報告、身分證書申請請求、航海日誌等  
ノ事オモ包含セリ故ニ本章ハ廣義ニ解シ一般登記事由ヲ供スルニ至  
ル迄ノ手續ヲ規定セルモノト云ハサルヘカラサルナリ  
身分ニ關スル届出ハ直接ニ戸籍吏ニ之ヲ爲スヲ以テ登記ノ事由トナ  
ルコトアリ又或ル官廳ノ手ヲ經テ始メテ登記ノ事由トナルコトアリ  
又届書ニ依ラス他ノ官廳ヲ經由セスシテ身分上ノ事實直チニ登記事  
由トナルモノアリ身分上ノ事實直チニ登記理由トナル場合トハ例ヘ  
ハ第二十七條ノ場合はナリ而シテ本章ハ此終リノ場合ヲ規定セスシ  
テ前二者ニ就テ之カ規定ヲ爲セリ

本章第一節ハ身分ニ關スル届出ノ一般ニ通シテ適用セラル、規則即チ通則ヲ規定セルモノニシテ第二節以下ハ身分上ノ事實ニ付テ各特別ナル規定ヲ爲セリ

### 第一節 通則

本節ニ於テ各種ノ身分上ノ事實届出ニ關スル通則ト規定セリ

第四十二條ハ届出ノ場所ヲ規定シ第四十三條ハ届出ノ方式ヲ規定シ第四十四條乃至第五十三條ハ届書ノ方式及個數ヲ規定シ第五十四條第五十五條ハ口頭ヲ以テ爲ス届出ヲ規定シ第五十六條第五十七條ハ付屬書類ノ事ヲ規定シ第五十八條ハ届出人ノ代理ヲ規定シ第五十九條乃至第六十一條ハ外國ニ於テ身分上ノ事實ノ生シタル場合ヲ規定シ第六十二條乃至第六十五條ハ届出期間ニ届出ヲ怠リタル場合ヲ規定シ

第六十六條ハ届出受理ノ證明書ヲ求ムル場合ヲ規定シ第六十七條ハ登記取消又ハ變更ニ關スル特別ノ規定ヲ爲セリ以下之ヲ説明セシ

第四十二條 身分ニ關スル届出ハ其届出人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但其届出人カ本籍地外ニ在ル場合ニ於テハ戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得

届出人カ本籍ヲ有セサルトキハ其届出ニ關シテハ所在地ヲ以テ本籍地ト看做ス

本條ハ身分ニ關スル届出ヲ爲スヘキ場合ヲ規定セリ

本條ニヨリ身分ニ關スル届出ヲ爲ス届先ヲ區別セハ左ノ如シ

第一 本籍地ノ戸籍吏ニ届出ツヘキ場合

届出人本籍地ニ在ルキハ其本籍地ヲ管轄スル戸籍吏ニ之ヲ爲スモ

ノトス是レ届出ノ場所ニ關スル原則ニシテ下ニ掲クル場合ハ之カ  
例外タルニ過キササルナリ

茲ニ届出人ト云ヘルハ届出事件ノ本人ト異ナルコトヲ知ルヘシ從  
テ届出人カ届出事件ノ本人ト原籍地ヲ異ニスルモハ何レノ戸籍吏  
ニ届出ツハキヤノ疑團ヲ裁斷シタルモノニシテ即チ届出人ノ身分  
登記ヲ司ル戸籍吏即チ届出人ノ原籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スヲ以テ  
本則トナシタリ届出人カ本籍地ヲ有セサル場合ニ於テハ其所在地  
ヲ以テ本籍地ト看做シ其所在地ノ管轄戸籍吏ニ届出ツヘキモノト  
ス是レ本籍ナキモノ、所在地ハ其人ト其土地トニ於ケル萬般ノ關  
係最モ深厚ナルヲ以テ之ヲ本籍地ト看做シタルモノナリ

## 第二 所在地ノ戸籍吏ニ届出ツル場合

身分届出ヲ爲サ、ルモノハ處罰ヲ受クヘキコトハ本法ノ規定スル  
所ナリ下ニ説明スル所アラシテ本籍地ニ必ス届出ヲ爲スヘシ  
トセハ費用ト時間ヲ費シ届出人ノ困難實ニ言フヘカラサルモノア  
ラン故ニ本條第一項但書ニ於テ届出人本籍地外ニ在ルモハ其所在  
地ノ戸籍吏ニ届出ツヘキモノトセリ是レ届出人ノ便宜ヲ計リタル  
ニ過キササルナリ

茲ニ注意スヘキハ届出人ト其届出事件ノ本人トノ區別是ナリ届出  
人トハ假令ハ妻ヲ娶リタル夫ニシテ届出事件ノ本人トハ則チ妻ナ  
リ故ニ此場合ニ於テハ妻ノ登記ハ夫ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届出ツル  
ヲ以テ本則トシ其本籍地ヲ有セサル場合ニ於テハ所在地ヲ以テ本  
籍地ト見做スナリ只本籍地外ニ在ルモ即チ妻ノ本籍地ニ在リテ妻  
ヲ娶リタル場合ニ於テハ其所在地ニシテ妻ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届  
出ヲ爲スヲ得ルト云フニ在リトス

第四十三條 届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス但正當ノ事由  
アルトキハ届出人ハ戸籍吏ニ其理由ヲ陳述シ口頭ニテ届出ヲ爲  
スコトヲ得

本條ハ届出ノ方式ヲ規定セリ

届出ハ届出事件ノ本人ノ身分上ノ事實ノ信實ナルコトヲ要スルモ  
ノナレハ書面ヲ以テ届出ツルヲ以テ原則トシタリ抑モ身分登記ノ  
事タルヤ身分ヲ證スル唯一ノ形式ニシテ之ヲ簿冊ニ登載スルモノ  
ナレハ之ニ關スル凡テノ事柄ハ皆書面ニ依ラシムルモノトス是レ  
正確ヲ保維シ後日ノ紛擾ヲ防クニ於テ其効力確實ナリト認メタル  
ニ由ルナリ

近時文運隆昌山間僻陬馬童走卒ニ至ルマテ殆ント文字ヲ解セサル  
モノ實ニ稀ナルニ至リ諸般ノ形式概テ文書ニ是レ依ルノ風愈盛シ

ナルヲ加フ殊ニ身分登記ノ如キハ後日ニ保存スル證據ニシテ書面  
ヲ以テスルヲ適切トス是ヲ以テ届ノミニ一關セス登記ニ關スル事  
柄ハ總テ書面ニ依ラシムル所以ナリ

以上ノ如ク届出ハ書面ヲ以テ爲スヘキモノト定ムルト雖モ絶体的  
此規定ヲ適用セントスルハ極メテ困難ナルノミナラス反テ其精神  
ニ戾ルモノナレハ正當ノ事由アルハ戸籍吏ニ其事由ヲ陳述シ口  
頭ヲ以テ其届出ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ

正當ナル事由トハ時ト場合トニ由リ判別スヘキ事實問題ニシテ一  
概ニ之ヲ論スルコトヲ得スト雖モ届出人文字ヲ解セサルカ又ハ盲目  
ナルモ之ニ代テ届出ヲ爲スモノナキ場合ノ如キハ蓋シ正當ノ理由  
ト云フヘキモノナルヘシ而シテ口頭上ノ届出ヲ爲ス手續及之ヲ受  
ケタル戸籍吏カ爲スヘキ手續如何ハ第五十四條ノ規定スル所ナル

ヲ以テ同條ヲ説クニ當テ之ヲ説明スヘシ

第四十四條 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

一 届出事件

二 届出ノ年月日

三 届出人ノ族稱、職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地

本條ハ届書ノ方式ヲ規定セリ

本條乃至第五十二條ハ皆届書ノ方式ニ關スル規定ナルモ本條ハ普通ノ場合ヲ規定シ次條以下ハ各場合ニ於ケル特別ナル方式ヲ規定セルモノナリ

本條ニ依レハ届書ニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一記載事項

記載事項ハ左ノ三トス

一 届出事件

届出事件トハ本章次節以下ニ規定セル各身分上ノ事實ニシテ届出ヲ爲スヘキモノヲ云フ例ヘハ出生ハ人ノ身分上ニ於ケル事實ニシテ本章第二節ニ依レハ届出ヲ爲スヘキモノタリ法律上之ヲ指シテ届出事件ト云フ(以下同之)

是レ届出ヲ爲ス眼目ニシテ此届出事件ノ記載ナケレハ如何トモスヘカラサルハ勿論此届出事件ナキニ於テハ届出ヲナスノ必要モ亦之レナキナリ如此届出事件ハ届書ニ於テ重要ナルモノナルヲ以テ決シテ誤謬不明ノ点ナカシムルコトニ注意スヘキモノトス

(二) 届出ノ年月日

届出ノ年月日トハ届出ヲ戸籍役場へ差出シタル年月日ニシテ届書



ヲ認メタル年月日ニアラサルナリ

而シテ届書ニ此事項ヲ記載スルハ若シ一定ノ期間内ニ届出ヲ怠リタルキハ本法第九章ニ依リ處罰ヲ受クヘキモノナルヲ以テ相當ノ期間内ニ届出タルモノナリヤ否ヤヲ明カニスルニアルモノトス

(三) 届出人ノ族稱職業出生ノ年月日及本籍地

本條ノ届出人トハ次條ニ云ヘル届出事件ノ本人ノ意義ニアラサルナリ届出事件ノ本人ハ(一)ノ事項ニ包含セルモノタリ而シテ届出人ト届出事件ノ本人ト相同シキトキハ(一)ニ記載スルト共ニ此(三)ノ事項オモ併セテ記載スルモノト知ルヘシ

是レ即チ届出人ヲ明カニスルモノニシテ族稱職業出生ノ年月日及本籍地ヲ顯ハスハ最モ其人ヲ表現スル適切ナル方法ナリトス何トナレハ世間人類多シト雖モ族稱職業出生ノ年月日及本籍地共ニ相

同シキモノ之レアラサルヘケレハナリ

而シテ届出人ヲ表示スルノ必要ハ届出人ハ正當届出ヲ爲スヘキ義務アルモノナリヤ否ヤヲ明カニスルノ必要アルヲ以テナリ

第二 届出人ノ署名捺印

是レ第一(一)ノ記載ト相俟テ完全ノ効用ヲ爲スモノニシテ其署名捺印ヲ爲スハ届出人自ラ其義務アルコトヲ證明シ併セテ責任ヲ明カニスルニアリトス

本條ノ規定ニ依ラスシテ爲シタル届書ハ無効ノモノタリ從テ其届出ヲ戸籍吏ニ差出スト雖モ元ヨリ其効力ナキヲ以テ未タ届出ヲ爲サ、ルト何等ノ區別ナキモノナレハ處罰セラレヘキ場合アルヘシ

第四十五條 届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其間ノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ハ届出人ト届出事件ノ本人ト相異ナル場合ニ届書ノ方式ヲ規定シタルモノナリ

本章届出ハ何人カ之ヲ爲スヘキモノナリヤハ第二節以下ニ規定スル所ナリ而シテ其届出人ト届出事件ノ本人ト異ナル場合アルヘキハ前ニモ述タル所ニシテ第二節以下ヲ講スルニ當テ詳細ニ之カ説明ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ茲ニハ只其異ナルコトヲ知ルヲ以テ足レリトス

届出人ト届出事件ノ本人ト異ナル場合ハ其届書ニ此二人ノ間ノ續柄ヲ明記スヘキモノトス其間ノ續柄ヲ記載スルハ本人ノ身分ニ關スル届出ヲ爲スヘキ義務アルモノヨリ届出タルモノナリヤ否ヤヲ

明カニスルモノタルナリ故ニ此記載ナキ場合ニ於テハ其出出ハ効力ヲ有セサルモノタリ

而シテ其續柄トハ親族ナルトキハ其親族關係家族戸主ノ間柄ナルトキハ其關係ニシテ例ヘハ父子兄弟又ハ養子若クハ子ノ妻等ヲ明記スヘキモノトス要スルニ届出人ト届出事件ノ本人トノ間ノ關係ニシテ届出事件ニ就キ届出人ハ如何ナル届出アルニヨリ届出ノ義務アルヤヲ明カニスルモノトス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要スルモノトス此場合ハ届出事件ノ本人戸主タルコトアリ又家族タルコトアリ何レノ場合ニ於テモ届出人カ家族ナルニ於テハ其戸主トノ續柄ヲ記載セサルヘカラス  
届スルニ戸主ノ氏名ヲ掲クルハ届出事件ノ本人ハ何レノ家ノ家族

ナルヤヲ知ルノ必要アルニ由ルナリ其必要如何ニ至テハ後ニ戸籍ニ關スル規定ヲ説クニ當テ自カラ明カナルヲ得ヘシ

戸主ハ一家ヲ總理シ家族ノ身分上ノ出來事ニ就テハ其家政上ニ於テ總テ之ヲ處理スルノ重任アルモノタリ故ニ本法戸主ヲシテ届出ヲ爲サシムル場合甚タ多シ然ルニ其戸主ヲ措テ家族ヨリ届出ヲ爲スニ於テハ如何ナル情實ノ伏在スルヤ明カナラス故ニ其事由ヲ明カニシ以テ届出ノ誤ナカラシムコトヲ期セリ是レ當ニ然ルヘキノ規定ト云フヘキナリ

#### 第四十六條

届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス

前項ノ場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、族稱、出生ノ年月日及ヒ本籍地
- 二 無能力ノ原因

#### 三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人タルコト

本條ハ届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治産者ナル場合ニ於テ其届出義務者ヲ規定スルト共ニ其届出ノ方式ヲ規定シタルナリ届出ヲ爲スヘキ者トハ第二節以下ノ規定ニ從ヒ届出ヲ爲スヘキ義務ヲ有スルモノニシテ後ニ説明セントスル所ナリ而シテ未成年者又ハ禁治産者ハ無能力者ナルヲ以テ少數例外ノ場合ヲ除クノ外法律上完全ナル効力ヲ生スル行爲ヲ爲スコトヲ得サルナリ法律上完全ナル効力ヲ生スル行爲トハ法律ニ於テ有効ト認ムル行爲トノ意ニシテ無能力者ノ爲シタル行爲ノ如キハ之ヲ有効ト認メサルカ故ニ其行爲ハ法律上完全ナル効力ヲ生スル行爲ニアラサルナリ而テ

効力ナキト共ニ又其責任ヲ有セサルカ故ニ無能力者其届出ヲ爲スモ其効力ナキト共ニ其届出ヲ爲サ、ルモ責任ナキナリ是ヲ以テ行爲能力ヲ有スルモノヲシテ無能力者ニ代テ之ヲ爲サシメサルヘカラス其無能力者ニ代ルヘキ者ハ親權ヲ行フ父又ハ母タラサルヘカラス然レトモ若シ親權ヲ行フモノナキトキハ後見人ヲ以テ之ニ代ラシムルモノトス

此場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第一 届出ヲ爲スヘキモノ、氏名族稱出生ノ年月日及本籍地是レ即チ届出ヲ爲スヘキ未成年者又ハ禁治産者ヲ表示スルモノニシテ別ニ説明ヲ要セス

### 第二 無能力ノ原因

無能力ノ原因トハ未成年者タルコト又ハ禁治産者タルコト等ヲ云

ヘルモノナリ是レ何故ニ届出ヲ爲スヘキ者以外ノ者ヨリ届出タルヤヲ明カニスルニアリ

第三 届出人カ親權ヲ行フ者タルコト又ハ後見人タルコト

是レ届出ヲ爲シタルモノハ如何ナル資格ヲ有スルモノナルヤヲ明カニスルニアリ

本條ハ前條ノ補則タル性質ノ規定ナレハ本條ヲ適用フヘキ場合ト雖モ尙前二條ノ條件ヲ具備セサルヘカラサルヤ論ナキナリ

### 第四十七條 前條ノ規定ハ無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得ス

シテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ノ届出ニハ之ヲ適用セス  
禁治産者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出人カ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スル者ナルコトヲ證スヘキ醫師ノ診断書ヲ添フルコトヲ要ス

本條ハ前條ノ例外ヲ規定セリ

無能力者ト雖モ法定代理人ノ同意ヲ得テ自ラ法律上ノ効力ヲ有スル行爲ヲ爲スコトヲ得ル場合ナリトス是レ民法ノ規定スル所ニシテ本法ニ説明スヘキ所ニアラサルモ便宜ノ爲メ其大畧ヲ一言スヘシ

法定代理人トハ例ヘハ未成年者ニ對シ親權ヲ行フ父又ハ母若クハ後見人禁治産者ノ後見人等ノ如シ

而シテ無能力者ハ一般此等ノ法定代理人ニ依ルニアラサレハ法律行爲ヲナスヲ得ス故ニ法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲シタル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ヘキモノナリ是レ無能力者ハ智能完全ナラス從テ生存競争場裡ニ立チ常ニ失敗ヲ招クコトアルヘキヲ以テ之ヲ保護スルノ精神ニ出テタルモノナリ然レトモ無能力者ト雖モ或

ル少數ノ場合ニ於テハ法定代理人ノ同意ヲ得スシテ獨立シテ行爲ヲ爲スコトヲ得其行爲タルヤ完全ナル効力ヲ有スルモノナリ是レ法律無能力者ト雖モ此等一定ノ事柄ニ付テハ自ラ之ヲ處理スルノ能力アルモノト認メタルニ外ナラサルナリ

本條第一項ハ無能力者カ法定代理人ノ同意ヲ要セスシテ爲スヲ得ル身分上ノ事柄ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス未成年者又ハ禁治産者自ラ之ヲ届出ツルモノトセリ故ニ此場合ニ於テハ届出ノ義務ハ全ク其未成年者又ハ禁治産者ニ存スルモノト知ルヘシ是レ其行爲ヲ爲スノ能力アルモノハ之カ届出ヲ爲スノ能力モ亦之レアルモノト認メタルニ外ナラサルナリ

法定代理人ノ同意ヲ得スシテ無能力者自ラ爲シ得ヘキ行爲トハ單ニ權利ヲ得義務ヲ免ル、行爲ヲ云フ故ニ例ヘハ其妻出産ノ届出ヲ

爲スカ如キハ無能力者自ラ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ是レ權利義務ニ關セサルモノナレハナリ

未成年者ノ無能力ナルハ智能充分ニ發達セサルニ基キ禁治産者ノ無能力ナルハ心神喪失ノ常況ニ在ルニ因ル而シテ未成年者ハ智能未タ充分發達セスト雖モ既ニ殆ト完全ナル域ニ達セルモノ往々ニシテ之レアルモ禁治産者ニ至リテハ恒心ナキヲ以テ常トス故ニ多クハ人ノ爲メニ欺罔セラレ獨リ義務ヲ負ヒ權利ヲ喪失スルノ届出ヲ爲スコトアルヘキヲ恐レ禁治産者ニ限り其届出ニ禁治産者カ届出事件ノ性質及効果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スルコトヲ證明スル醫師ノ診斷書ヲ添ユルコトヲ定メタリ

**第四十八條** 證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ其證人タルコト、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載シテ署名捺

印スルコトヲ要ス

本條ハ届出事件ノ證人ヲ要スル場合ニ届出ノ方式ヲ規定シタルモノナリ

届出事件ニハ證人ヲ要スル場合アリ是レ民法ノ規定スル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ詳説セス例ヘハ民法第七百七十五條ニ依レハ婚姻ノ届出ハ當事者双方及成年ノ證人二人以上ヨリ口頭又ハ書面ヲ以テ之ヲ爲サ、ルヘカラス

斯ル場合ニ於テハ届書ニハ其證人タルコト及其證人ノ出生年月日職業及本籍地ヲ記載シテ署名捺印スルコトヲ要ス是レ人違ナキヤヲ確メ得ルノ材料トナルモノナリ

**第四十九條** 届出人、届出事件ノ本人又ハ届出ノ證人カ本籍地外ニ在ルトキハ届書ニ其所在地ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ハ届出人届出事件ノ證人又ハ届出ノ證人ノ本籍地外ニアル場合ノ届書ノ方式ヲ規定セリ

即チ本條示ス如ク其所在地ヲ記載スルコトヲ要ス其所在地ヲ知ルハ第四十條ニ於テ規定シタル如キ必要アレハナリ其他此必要ナル所以ハ以下各條ヲ説クニ當テ思ヒ半バニ過クルモノアラシ

**第五十條** 本法ノ規定ニ依リ届書ニ記載スヘキ事項中其事實ノ存

セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但戸籍吏ハ各届出事件ニ付キ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

本條ハ届書ニ記載スヘキ事項中其事實ノ存セサルトキ又ハ知レサル場合ニ就テノ規定ナリ

本法第二節以下ニ規定セル届書ニ記載スヘキ事項及前六條ニ規定

セル事項中其事實ノ存在セス又ハ知レサル場合ニハ其旨ヲ届書ニ記載セサルヘカラス是レ身分ニ關スル届出ハ方式ヲ貴ヒ一ニ其方式ニ從ハサルヘカラサルヲ以テ從テ事實存在セス又ハ不明ナル場合ニ於テ之ヲ記載セサランカ違式ノ届書タルニ過キスシテ何等ノ効果ヲモ奏セサルナリ故ニ事實ノ存セサルコト又ハ其不明ナル旨ヲ記載シテ其方式ヲ完備セシムルニアリ

然レトモ前述ブル所ハ一ノ例外タルニ屬ス原則トシテハ總テノ事項ヲ記載スヘキモノタリト雖モ總テノ事項ノ充全ヲ強要スルハ難キヲ責ムルノ嫌アルノミナラス必要ノ届出モ爲ニ往々阻礙セラルハコトアリテ實際其弊竇ニ堪ヘサルニ至ルヘケレハナリ然レトモ重要ナル事項ニ至テハ之ヲ記載セサレハ全ク其届書ノ方式ニ欠缺アルモノナルヲ以テ戸籍吏ハ之ヲ受理スルコトヲ得サルナリ戸籍

吏若シ之ヲ受理シタルトキハ其責任ヲ免レサルハ勿論之ニ由テ爲シタル登記ハ無効ノモノタルナリ

而シテ重要ナル事項ナルヤ否ヤハ事實問題ニ屬セリ故ニ戸籍吏ハ慎重ニ之ヲ考量セサルヘカラサルナリ

**第五十一條** 届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

本條ハ届出記載ノ事項ヲ限定セリ

前條ハ記載事項ノ不備ナル場合ヲ規定シ本條ハ記載スヘキ事項ヲ限定セリ届出ハ方式ヲ重スルモノナルコト前述タル所ナリ故ニ其記載事項ノ備ハラサルコトアルヘカラサルト同時ニ不用ノ事項ヲ記載スヘカラサルナリ而シテ其不用ノ事項トハ本法及他ノ法令ニ定メタル以外ノ事項ノ謂ヒナリ故ニ換言セハ届書ニ記載スヘキ事項

トハ本法及他ノ法令ニ特定セルモノニ限り其他ノ事項ハ之ヲ記載スルヲ得スト云フニ在ルナリ

法令トハ法律命令ノ云ヒニシテ法律命令トハ如何ナルモノナリヤハ他ノ法律ニ於テ研究スヘキ事柄ニ屬スト雖モ便宜ノ爲メ聊カ茲ニ畧述スヘシ

法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經タル決議案ニ因リ天皇之ヲ裁可シ公布シタルモノニシテ命令トハ天皇自ラ又ハ官府ニ委任シ發布シタル規則ヲ云フ例ヘハ勅令閣令省令府縣令等是ナリ故ニ訓令指令ノ如キハ命令ニアラサルナリ

届書ニハ本法及其他ノ法令ニ規定シタル以外ノ事項ヲ記載スヘカラス若シ此以外ノ記載ヲ爲シタルモノハ届書タルノ性質ヲ具ヘサルモノナルヲ以テ其届書ハ無効タルヘキナリ



### 第五十二條 第二十九條ノ規定ハ届書ノ記載ニ之ヲ準用ス

本條ハ届出ニ記載スヘキ用字ヲ規定セリ

登記ヲ爲スニハ畧字符號ヲ用ユヘカラサルコト及其數字ノ用字並ニ改竄訂正挿入又ハ削除等ノ事ニ關シテハ第二十九條ニ於テ規定セル所ニシテ其理由如何ニ至テハ既ニ同條ニ於テ詳細之カ説明ヲ與ヘタレハ就テ見ルヘシ

本條ハ右ト同一ノ理由ニヨリ届書ニ於テモ第二十九條ノ規定ヲ準用スヘキモノナルコトヲ規定セリ是レ届書ハ登記ノ基因トナルヘキモノニシテ其記載スル事項ノ正否ハ登記ノ記載ニ重大ナル影響ヲ及ホスモノナルヲ以テナリ

### 第五十三條 本籍地ノ戶籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ハ正副二本ヲ作ルコトヲ要ス

届出ニ因リ一人又ハ數人ノ本籍カ一ノ家ヨリ他ノ家ニ移轉スル場合ニ於テ兩家ノ本籍地カ戶籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ届書ハ正副二本ヲ作り届出地ト兩家ノ本籍地トカ各戶籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一通副本二通ヲ作ルコトヲ要ス

本條ハ届書ノ個數ヲ規定セリ

本籍地外ニ於テ身分ニ關スル届出ヲ爲ス場合ハ第四十條ノ規定スル所タリ又此場合ニ届出ヲ受ケタル戶籍吏カ登記ノ後ニ爲スヘキ手續ハ第三十三條乃至第三十五條ニ於テ之カ規定ヲ爲セリ而シテ本條ハ此場合ニ於ケル届書ノ個數ヲ規定セリ以下之ヲ説明セン

第一 本籍地ノ戶籍吏ノ管轄地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ届書ハ正副二通ヲ作ルコトヲ要ス

其理由如何ニ至テハ第三十五條ノ説明ニ就テ見ルヘシ

第二 届出ニヨリ一人又ハ數人ノ本籍カ一家ヨリ他家ニ移轉スルトキ兩家ノ本籍地カ戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスル場合ニハ届書ハ正副二通ヲ作ルコトヲ要ス其理由ハ第三十三條ノ説明ニ就テ見ルヘシ

第三 届出地ト兩家ノ本籍地トカ各戸籍吏ノ管轄ヲ異ニスルトキハ正本一通副本二通ヲ作ルコトヲ要ス其理由ハ第三十四條ノ説明ニ就テ知ルヘシ

第五十四條 口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シ其届出事件ヲ陳述シ戸籍吏ハ直チニ其口述竝ニ届出ノ年月日、届出人ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

本條ハ口頭ヲ以テスル届出ノ場合ヲ規定セリ  
身分ニ關スル届出ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヲ以テ本則トシ口頭ヲ以テ爲ス場合ヲ例外トスルコトハ第四十三條ニ於テ説明セル所ナリ  
本條ハ此例外ノ場合即チ口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ如何ナル方式ニ依ルヘキモノナリヤヲ規定セリ  
口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ戸籍吏ノ面前ニ出頭シテ其届出事件ヲ陳述シ戸籍吏ハ直チニ其口述並ニ届出ノ年月日届出人ノ氏名出生ノ年月日職業及本籍地ヲ筆記シ之ヲ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ之ニ署名捺印ヲ爲サシムルコトヲ要ス  
戸籍吏ノ面前ニ出席スルハ届出人タラサルヘカラス代人ヲ以テスルコトヲ許ササルナリ是レ誤謬ヲ招キ易キノ恐アレハナリ而シテ届出人ノ何者タルハ第四十五條ニ就テ見ルヘシ

届出事件ヲ陳述スルハ第四十四條第一號ニ當リ届出ノ年月日ハ同條第二號ニ當リ届出人ノ氏名出生年月日職業及本籍地ハ同條第三號ニ當ルモノナルヲ以テ此等ノ事項ヲ筆記スル理由ハ同條ノ說明ニ就テ見ルヘキナリ而シテ之ヲ筆記シ終リタルトキハ其同文ヲ届人ニ讀聞カセ其誤ナキヲ知ラシメ然ル後届出人ヲシテ署名捺印セシムルモノトス若シ届出人文字ヲ知ラサルトキハ戸籍吏代テ其スヘキヤ當然ナリ以上ノ規定ハ第四十四條第一項ニ規定スル所ト署名ヲ爲同一ナレハ其理由ノ如キモ同條ニ就テ知ルヘキナリ

**第五十五條 前條ノ規定ニ依リテ戸籍吏カ作ルヘキ書面ニハ届書ニ關スル規定ヲ準用ス**

本條ハ口頭上ノ届出ニ付テ戸籍吏カ作ルヘキ書面ノ方式ヲ規定セリ

口頭ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ハ前條規定セル如ク戸籍吏其陳述ヲ筆記シ以テ届書ニ代ユルモノトス故ニ此書面タルヤ届書ノ方式ヲ要スルヤ言フ俟タス即第四十五條以下第五十三條ノ規定ニ從ヒ之ヲ製スヘキモノニシテ其理由ノ如キモ亦前數條ニ於テ述タル所ナルヲ以テ茲ニ再ビ之ヲ贅セズ

**第五十六條 第四十三條、第五十四條及ヒ前條ノ規定ハ届出事件ニ關スル同意、承諾又ハ承認ノ證明ニ之ヲ準用ス**

本條ハ届出事件ニ關スル同意承諾又ハ承認ノ證明ニ付テ其方式ヲ規定セリ

本條ノ理由ヲ説クニ當テ先ツ本條ニ掲クル事項ノ如何ナルモノナリヤヲ明カニスヘシ是レ民法親族編ノ規定ニ係ルヲ以テ其大畧ヲ説明スルニ止メン

第一 届出事件ニ關スル同意

届出事件ニ關スル同意トハ本章第二節以下ニ規定セル届出事件ノ同意ヲ要スル場合ヲ云ヘルモノニシテ民法ノ規定スル所ヲ見ルニ婚姻ヲ爲スニハ男三十歳女二十歳ニ至ルマテ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ要スルモノナリ此場合ニ於ケル届出ニハ同意ヲ爲シタル旨ノ証明ヲ要スルカ如シ

第二 届出事件ニ關スル承諾

届出事件ニ關スル承諾トハ本章第二節以下ニ規定セル届出事件ニ付承諾ヲ要スル場合ヲ云フ民法ノ規定スル所ニ依レハ養子ト爲ルヘキ者カ十五歳未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代リテ縁組ノ承諾ヲ爲ス場合ノ如シ此場合ニ於ケル届書ニハ其承諾ノ証明ヲ要スルカ如シ

第三 届出事件ニ關スル承認

届出事件ニ關スル承認トハ本章第二節以下ニ規定セル届出事件ニ就キ承認ヲ要スル場合ヲ云フ例ハ滿六十歳ニ達セハ戸主カ隠居ヲ爲サントスルトキハ完全ナル能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ爲スコトヲ要スルモノナリ此場合ニ於テハ其承認ノ証明ヲ爲サ、ルヘカラザル如シ

以上三個ノ証明ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スモノトス此書面ニハ第四十四條以下ノ届書ノ方式ニ則リ之ヲ認メサルヘカラス若シ正常ノ事由アリ口頭ヲ以テ其證明ヲ爲ス場合ニハ第五十四條ノ規定ニヨリ戸籍吏之ヲ筆記シ第四十四條以下ノ方式ニヨリ之ヲ認ムヘキモノトス其理由如何ニ至テハ前數條ノ説明ヲ對照シテ知ルヘシ

第五十七條 本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外法令ノ規定ニ依リ届

出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届出人ハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

本條ハ届出事件ニ官廳ノ許可ヲ要スル場合ノ届出ノ手續ヲ規定セリ

本法ニ於テ別段官廳ノ許可書ヲ添ユルコトヲ命シタル場合ノ外法律命令ニ於テ之ヲ規定シタル場合ハ其許可書ノ謄本ヲ届書ニ添付シ之ヲ差出スコトヲ要ス是レ其官廳ノ許可アリタルコトヲ証明スル爲ノ方式ニシテ又他意ナキナリ

本法ニ於テ官廳ノ許可書ヲ添フルコトヲ命シタル場合トハ例ヘハ歸化ヲ爲シタル者ハ内務大臣ノ許可書ヲ添ヘテ届出ヲ爲スヘキ場合ノ如シ此他本法所々ニ規定スル所アリト雖モ各其條ニ就テ見ルヘシ

本法以外ノ法律命令ニヨリ官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ各其法律命令ニ就テ知ルヘキモノニシテ本法ニ於テ之ヲ論スヘキモノニアラス讀者自ラ之ヲ研究スヘシ

**第五十八條 届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出タスコトヲ得**

本條ハ代理人ヲ以テ届出ヲ爲ス場合ヲ規定セリ  
届出ハ届出人自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スルヲ以テ本則トス是レ第五十四條ニ於テ述タル所ニシテ當ニ口頭ニ於ケル届出ニ就テノミナラス届書ヲ以テスル場合ト雖モ亦自ラ出頭セサルヘカラス何トナレハ届出トハ届出事件ヲ戸籍吏ノ面前ニ表現スルヲ云フモノニシテ書面ニ記述シタルヲ以テ届出ト云フヘカラス必ス書面ヲ戸籍吏ノ面前ニ送致シテ始メテ届出ノ効力アルモノナレハ書面ニテ届

出ツル場合ト雖モ届出人自ラ携帶出頭スヘキナリ況ンヤ口頭ヲ以テ爲ス場合ノ如キハ其自ラ出頭スヘキヤ論ヲ俟タサルナリ然レトモ届出人疾病其他ノ事故ニ因リ自ラ出頭スル能ハサル場合ハ代理人ヲ差出スコトヲ得セシム是レ止ヲ得サルニ出タルノ規定ニシテ前述ノ原則ニ對スル例外タルナリ茲ニ代理人トアルハ第四十六條ニ於ケル親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ云フニアラス此等ノ者ハ正當ノ届出人ニシテ届出人ノ代理人ニアラサルナリ而シテ茲ニ所謂代理人ハ能力者タルコトヲ要セサルナリ其理由如何ニ至テハ民法第百二條ニ就テ研究スヘキモノナリトス

次ニ本條ニ其他正當ナル事故ニヨリ云々ト云フテ前ニ如何ナル事故アル場合ナリヤヲ限定セス故ニ一ニ事實ニ就テ判別セサルヘカ

ラスト雖モ要スルニ自ラ戸籍吏ノ面前ニ出頭スル能ハサルノ事故タラサルヘカラサルヤ明カナリ

### 第五十九條 外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

本條ハ外國ニ於テ爲ス届出ノ場合ヲ規定セリ

日本人外國ニ於テ身分ニ關スル届出ヲ爲ス必要アルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ之ヲ爲スコトヲ得若シ此場合ニ於テモ尙本國ノ戸籍吏ニ届出ツヘシトセハ届出人ノ困難實ニ名狀スヘカラサレハナリ而シテ公使ハ一國政府ノ代表者トシテ領事ハ臣民ノ貿易交通ノ利益ヲ獎勵保護者トシテ何レモ外國ニ駐在シ在留國民ヲ保護スルヲ以テ職務トセルモノナルニ依リ其何レカニ之ヲ届出シムルモノトセリ然レトモ身分登記ノ事タル其性質上領事ノ

取扱フヘキモノニシテ公使之ヲ取扱フヘキモノニアラス故ニ寧ロ領事ニノミ届出ツヘキモノナリト雖トモ世界至ル所ニ領事ノ設ケアラサルヲ以テ其國又ハ接近ノ地ニ駐劄セル公使ニモ亦タ此届出ヲ爲スコトヲ得セシメタリ是便宜ニ出タルモノト云フヘキナリ

第六十條 外國ニ在ル日本人カ其國ノ法式ニ從ヒ届出事件ニ關ス

ル證書ヲ作ラシメタルトキハ三個月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

日本ノ公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ本人歸國ノ後一ヶ月内ニ本籍地ノ戸籍吏ニ證書ノ謄本ヲ差出タスコトヲ要ス

本條ハ届出人ノ所在地ニ日本ノ公使又ハ領事駐在セサル場合ヲ規定セリ

外國ニ在ル日本人前條ノ届出ニヨリ身分ニ關スル届出ヲ爲サント

スルモ其地ニ公使又ハ領事不在ラサルトキハ公使又ハ領事ノ駐在セル場所ニ至ルカ然ラサレハ日本ニ歸國シテ届出サルヘカラス是レ時日ト費用トヲ徒費スルノミナラス或ハ目的ノ事業ヲモ遂クル能ハサルコトナキヲ保セス實ニ困難ノ事ト云フヘシ法律ハ人ニ難キヲ強ヒス故ニ其在留スル國ノ法律ニ依リ其場所ヲ管轄スル其國ノ身分取扱吏ニ届出ツルコトヲ許シ而シテ其届出事件ニ關スル適法ノ證書ヲ作ラシメタルトキハ其後ノ手續ハ左ノ區別ニ從フ

第一 其國ニ日本ノ公使又ハ領事カ駐在セルトキ

此場合ニハ三ヶ月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ差出スコトヲ要ス而シテ法文明示スルナシト雖モ其謄本タル其國ノ身分取扱吏カ作リタルモノナラサルヘカラサルヤ言ヲ俟タスシテ明カナリ而シテ其三ヶ月ノ期間ハ立法者カ届出人所

在地ヨリ公使又ハ領事ニ證書ノ謄本ヲ差出スニハ充分ナリト思慮シタル結果ナリ此期間ハ證書ノ謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算スルモノニシテ其後三ヶ月ノ期間内ニ差出スコトヲ要スルナリ若シ其期間ヲ經過シタルトキハ第二百十條ニ擬スヘキヤ明ラカナリトス

第二 日本ノ公使又ハ領事カ若シ其國ニ駐在セザルトキ

此場合ニ於テハ止ヲ得サルカ故ニ本人歸國ノ後一ヶ月内ニ其謄本ヲ本籍地ノ戸籍吏ニ差出スコトヲ要ス其一ヶ月ノ期間ニ限定シタル理由及此期間内ニ差出スコトヲ怠リタルトキ亦第二百十條ニ擬セラルヘキヤ第一ト異ナルナキナリ  
茲ニ本人ト云ヘルハ代理人ニ對スルノ語ニシテ即チ届出人ヲ指シタルモノニシテ届出事件ノ本人ノ云ヒニアラサルナリ故ニ届出事

件ノ本人カ歸國スルモ一ヶ月ノ期間ハ進行セス又代理人ヲシテ本人ノ歸國前ニ届出ヲ爲サシムルハ敢テ妨ケトナラサルナリ

本條ニ差出ストハ第五十八條ニ於ケル差出スト意義相同シク發送スト云フニアラスシテ到達セシムルトノ意ナリ次條ト對照セハ正當ノ推理ナルヲ會得スルヲ得ヘシ

第六十一條 前二條ノ規定ニ依リテ公使又ハ領事カ受取リタル届書又ハ證書ノ謄本ハ其公使又ハ領事ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

本條ハ公使又ハ領事カ前二條ニヨリ届書又ハ證書ノ謄本ヲ受取タル後ノ手續ヲ規定セリ

公使又ハ領事カ前二條ノ規定ニヨリ届書又ハ證書ノ謄本ヲ受取リ



タルトキハ其公使又ハ領事ハ其受取リタル日ヨリ三ヶ月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送スルモノトス而シテ外務大臣之ヲ受取リタルトキハ十日内ニ之ヲ本人本籍地ノ戸籍吏ニ發送スヘキモノタリ  
本條ニ發送トハ送り出スノ意ナルコト明カナリ而シテ公使領事カ此期間ヲ怠リタルト雖モ上級官府ノ監督上ノ責任ヲ負フコトアルハキモ本法ニ於テハ之カ制裁ナキナリ

第六十二條 本法ニ定メタル届出期間ハ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ届出義務者カ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受クル前裁判カ確定シタルトキハ其送達又ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ之ヲ起算ス

本條ハ届出期間ノ起算点ヲ規定セリ

本條ヲ説明スルニハ便宜ノ爲メ左ノ區別ヲ設クヘシ

第一 届出事件裁判ニ因ラサル場合

此場合ニ於テハ届出ノ期間ハ届出事件ノ發生シタル日ヨリ之ヲ起算スルモノトス届出事件ノ發生シタル日トハ届出事件カ事實上成立シタル日又ハ無効トナリタル日ヲ云フ例ヘハ出生ニ就テハ其出生ノ事實アリタル日ハ届出事件發生ノ日ナリ婚姻ニ就テハ配偶者ノ事實アリタルトキ即チ婚姻成立ノ日ヲ云フ

第二 届出事件裁判ノ確定ニ因ル場合

届出事件裁判ノ確定ニ因ル場合トハ裁判確定ニヨリテ民法上ノ効力ヲ發生スル場合ヲ云フ例ヘハ離婚ヲ爲スニハ協議ニ因ルモノト裁判ニ因ルモノトアリ而シテ此裁判ニ因ル場合ハ裁判確定シタル日即チ民法上届出事件ノ發生シタル日ナリ而シテ此場合ニ於テハ

更ニ左ノ區別ニ從フモノトス

(一) 届出義務者カ裁判確定ノ前ニ裁判ノ送達又ハ交付ヲ受ケタルトキ

裁判ハ言渡シニヨリ確定スヘキモノアリ言渡後一定ノ期間ヲ經過シテ確定スヘキモノアリ而シテ送達又ハ交付ハ裁判言渡ノ後之ヲ爲スモノナルヲ以テ若シ届出義務者カ其送達又ハ交付ヲ受ケタルトキ未タ裁判確定ニ至ラサルトキハ其確定ヲ待テ始メテ届出ヲ爲スヘキモノトス是レ裁判ナルモノハ確定ニヨリテ強制力發生スルモノニシテ其確定以前ニアリテハ未タ此効力ヲ有セサルニ因ルナリ

(二) 届出義務者カ裁判確定ノ後其裁判ノ送達又ハ交付ヲ受ケタルトキ

裁判ハ確定ニヨリテ強制力ヲ發生スルモノナルコトハ前條ニ之ヲ述タリ故ニ其確定ハ正ニ届出事件ノ發生シタル日ナルヲ以テ茲ニ届出ノ義務モ亦發生スルモノト云フヘキナリ然レトモ届出義務者ハ當ニ其裁判ノ當事者ニアラス從テ其確定ヲ知ラサルコトアルヘシ故ニ此場合ニ於テハ送達又ハ交付ヲ受タル日ヨリ起算スルモノトセリ

茲ニ注意スヘキハ本法届出期間ノ起算点ハ本條ニ於テ規定セラレタリト雖モ其計算法ニ就テハ明言スル所ナシ故ニ普通法ノ規定スル所ニ從ヒ日ヲ計算スルニハ廿四時間ヲ以テ一日トシ月ハ三十日ヲ以テ一月トシ年ヲ計算スルニハ歴ニ依ルヘキモノト信ス

**第六十三條** 本法ノ規定ニ依リ期間内ニ爲スヘキ届出ヲ怠リタル爲メ過料ニ處セラレタル者アルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其者カ

届出ヲ爲スヘキ地ノ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス但戸籍吏ヨリ既ニ届出ヲ受理シタル旨ノ通知アリタル場合ハ此限ニ在ラス

戸籍吏カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲サ、ルトキハ戸籍吏ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ要ス爾後届出義務者カ戸籍吏ノ催告ニ應セサルトキ亦同シ

本條ハ届出義務者カ届出ヲ忘リタルトキ過料ニ處セラレタル後ノ手續ヲ規定セリ

届出期間内ニ届出ヲ爲サ、ルトキハ過料ニ處セラレ、コトアルハ第二百十條第二百十一條ノ規定スル所ナリ而シテ其届出期間内ニ

届出ヲ忘リタル爲メ過料ニ處セラレタルトキハ裁判所ハ遲滞ナク其者カ届出ヲ爲スヘキ地即届出人所在地ノ戸籍吏ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス是レ戸籍吏ヲシテ届出ノ催告ヲ爲サシムルノ便ヲ與ヘタルモノナリ

戸籍吏右ノ通知ヲ受ケタルトキハ直チニ届出義務者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルモノトス是レ身分登記ハ公益ニ關スルモノニシテ其届出ハ強制シテ之ヲ爲スヘキモノタレハナリ

届出義務者カ裁判確定ノ後直チニ届出ヲ爲シタルトキハ戸籍吏ハ速ニ其受理シタルコトヲ裁判所ニ通知スルコトヲ要ス裁判所カ右ノ通知ヲ受ケタルトキハ過料ニ處セラレタル通知ノ如キハ其必要ナキナリ

戸籍吏カ前述フル如ク届出ノ催告ヲ爲スニハ身分登記ハ公益ニ關スルモノナルヲ以テ之ヲ各人ノ自由ニ一任スヘキニアラス從テ一度催告ヲ爲シタルモ之ニ應セサルトキハ更ニ期間ヲ定メテ催告スヘキモノタリ爾後幾回ト雖モ届出ヲ爲サ、ルニ於テハ之ヲ再演セサルヘカス是レ本條第三項ノ規定スル所ナリ而ノ其催告ノ費用タル届出義務者ノ負擔タルヤ言フ俟タサルナリ

茲ニ注意スヘキハ本條届出ト云ヘルヲ以テ申請ニ付テハ本條ヲ適用セサルカ如シト雖モ第六十七條ニヨリ本條モ及之ヲ準用セラル、モノト知ルヘシ

**第六十四條** 戸籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲サ、ル者アルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク之ヲ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコトヲ要ス

本條ハ期間内ニ届出ヲ爲サ、ルモノアルキハ籍吏ノナスベキ手續ヲ規定セリ

戸籍吏カ其管轄内ニ本法ノ規定ニ違反シテ届出ヲ爲サ、ル者アルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク之ヲ其事件ノ管轄裁判所ニ通知スルコトヲ要スト定メタリ是レ裁判所ヲシテ反則者ヲ知ラシムルニ適切且迅速ナルヲ得ヘケレハナリ

其事件ノ管轄裁判所トハ人事訴訟事件手續法ノ定ムル所ニヨリ其事件ヲ管轄スル裁判所ヲ云フ

**第六十五條** 届出期間ヲ經過シタル後ニ届出ヲ爲シタル場合ト雖モ戸籍吏ハ其届出ヲ受理スルコトヲ要ス

本條ハ戸籍吏ハ届出期間經過后ト雖モ其届出ヲ受クヘキコトヲ規定セリ

身分登記ハ公益ニ關スルモノニシテ必ス之ヲ爲スヘキモノトス故ニ縦令届出期間ヲ經過シタリト雖モ之ヲ届出ツヘキハ勿論戸籍吏モ亦之ヲ受理セサルヘカラサルヤ明カナリトス

第六十六條 届出人ハ手数料ヲ納付シテ届出受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得

本條ハ届出人カ届出受理ノ證明書ヲ受クヘキ權利ノアルコトヲ規定セリ

届出期間ニ届出ヲ爲サ、ルトキハ相當ノ處罰ヲ受クヘキコトハ前述タル所ナリ此場合ニハ届出期間内ニ届出ヲ爲シタルコトノ証明ヲ必要トスルコトアルヘシ其他何レノ場合ニ於テモ届出人ニ於テ届出受理ノ證明書ヲ要スルニ於テハ相當ノ手数料ヲ納付シテ受理ノ證明書ヲ請求スルノ權利アルモノナリ

第六十七條 届出ニ關スル規定ハ登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ之ヲ準用ス

本條ハ本節以下第二十一節ノ規定ハ之ヲ申請ニ準用スルコトヲ規定セリ

本法登記ノ取消又ハ變更ノ申請ニ付テハ別ニ規定スル所ナシ而シテ本節以下第二十一節ノ規定ハ總テ之ヲ準用スルモノトス

## 第二節 出生

出生ハ身分ヲ獲得スル大起源ニシテ各人種々ノ身分ハ皆之ニ基カサルモノナシ故ニ本法ニ於テ出生ヲ以テ其首部ニ置ケリ

本節ニ規定スル所ノモノハ人ノ出生ヨリ起リ人ノ子タル身分即親族關係即チ私法上ノ人格及ヒ公法上ノ人格ヲ意味スルモノトス然レト

モ人タルノ性格ハ權力關係及權利關係ノ主格タルノ資格ニシテ之ヲ身分ト稱スヘカラス身分トハ單ニ人ノ親族關係ヨリ生スル資格ヲ云ヘルニ過キササルナリ本節ニ於テハ自然人カ人ノ子タル身分及人格ヲ取得スル場合ニ就テノ規定ナリトス

出生ト云ヘハ母ノ胎内ヨリ分娩シタルノ事實ヲ云ヘルモノニシテ其出産シタル子カ男子タルト女子タルト將タ又肢体ノ完全ナルト否トヲ問ハサルナリ然レトモ必ス生命ヲ有セサルヘカラス若シ夫レ生命ヲ有セサルニ於テハ人タル資格ナキモノニシテ從テ身分上ノ關係即親族關係ヲ有セサルナリ人格殊ニ身分上ノ關係ハ人ト人トノ間ニ生スルモノニシテ人ト物体トノ間ニ生スルモノニアラス死体ハ法律上既ニ人ニアラスシテ一個ノ物体ナレハナリ然レトモ出産ノ當時縱令瞬間タリトモ氣息ヲ有センカ茲ニ即チ法律上ノ人格及身分上ノ關係

ヲ生スルモノニシテ其相續權ニ影響スルカ如キ最モ重大ノ結果ヲ有スルモノナレハ生産死産ヲ論セス必ス届出ヲ爲サ、ルヘカラサルナリ

本節ハ題シテ出生ト云ヘルモ單ニ出生ノ場合ノミヲ規定シタルニアラス人ノ人格及身分ヲ確定スル方法ヲモ包含セシメタリ蓋シ本法ハ人ノ人格及身分ニ關スル唯一ノ證明ニシテ又行政施行上便宜ノ爲メニ設ケラレタルモノナレハナリ

本節規定セル所ニ依レハ定生ノ場所ニヨリ届出義務者及其届出ノ手續モ異ナリ一定セサルモノアリ是レ出生ハ人爲ニアラス從テ何レノ場所ニ於テ起ルヘキヤ豫メ知ルヲ得サルノミナラス實ニ人ノ身分ヲ創生スル起源タルヲ以テ一日モ速ニ之ヲ届出シメサルヘカラサルノ要アリ故ニ種々ノ方法ヲ設タル所以ナリ

第六十八條 子ノ出生アリタルトキハ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 子ノ名及ヒ男女ノ別

二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子ト爲リタル者ナルトキハ其旨

三 出生ノ年月日時及ヒ場所

四 父母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ母ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス

五 出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、族稱、職業及ヒ本籍地

六 出生子カ一家ヲ創立スル者ナルトキハ其旨及ヒ創立ノ原

因

七 國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

本條ハ届出期間及届出ニ要スル條件ヲ規定セリ

子ノ出生アリタルハ十日内ニ届出ヲ爲サ、ルヘカラス其届出ニハ左ノ條件ヲ具備セサルヘカラス

第一 子ノ名及男女ノ別

是レ其人ヲ表示スルモノナリ人ヲ表示スルニハ名ヲ以テスルモノニシテ其子ハ終生此名ヲ以テ表示セラル、コトヲ確定スルモノナリトス其男女ノ別ヲ明ニスルヲ要スルハ相續婚嫁及徴兵等ニ關スル其規定ヲ異ニスルモノ甚タ少ナカラサレハナリ

茲ニ男女ノ別トアルモ男性ナリヤ將タ女性ナリヤ不明ナル場合アリ此場合ハ第五十條ニ依リ其明瞭ナラサル事由ヲ記述セサルヘカ

ラス

第二 子カ私生子ナルトキ又ハ出生前ニ認知セラレタル爲メ庶子トナリタルトキハ其旨

私生子トハ法律上父ノ知レサル子ヲ云ヒ庶子トハ父カ認知シタル私生子ヲ云フ此條件ノ必要トスルハ私生子ハ母ヨリ庶子ノ出生ハ父ヨリ届出ツヘキモノナルノミナラス其私生子タルト庶子タルト嫡出子タルトハ身分上ノ權利ニ著シキ差異アレハナリ此故ニ私生子又ハ庶子ニ限リ特ニ此條件ヲ附著シ以テ嫡出子ニアラサルコトヲ明瞭ナラシメタルモノトス

### 第三 出生ノ年月日時及場所

出生ノ年月日時ヲ表示スルハ年齢ノ起算點ヲ確定スルニアリ從テ届出期間ヲ算定スルヲ得ヘシ出生ノ場所ヲ明カニスルハ第六十九

條第七十條第七十四條及第七十八條ノ場合ニ必要アレハナリ

第四 父母ノ氏名族稱職業及ヒ本籍地但私生子ノ届出ニ付テハ

母ノ氏名族稱職業及本籍地ノミヲ記載スルコトヲ要ス

是レ其父又ハ母ヲ明カニスルモノニシテ左ノ必要アルニ由ルモノトス

(一) 子ノ家ヲ明カニスルコト

子ハ父ノ家ニ入り父ノ知レサル子ハ母ノ家ニ入り父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創設スルカ故ナリ

(二) 子ノ氏及族稱ヲ明カニスルコト

戸主及家族ハ其家ノ氏ヲ稱スルモノナルヲ以テ子ハ父又ハ母ノ氏ヲ稱シ且ツ族稱ヲ同フスルモノナリ

(三) 親子ノ關係ヲ明カニスルコト



親子ノ身分ヨリ生スル私法上ノ關係ハ民法ノ規定スル所ニシテ今茲ニ其詳細ヲ論スルニ遑アラズ民法ニ就テ之ヲ知ルヘキノミ

第五 出生子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名、族籍、職業及本籍地是其子ノ附屬スル戸主ヲ明カニスルモノニシテ其之ヲ要スル所以ハ戸主ト家族ノ身分上ノ關係ヲ明カニスルニアリ而シテ其詳細ハ又民法ノ規定スル所ナルヲ以テ就テ知ルヘシ

第六 出生子カ一家ヲ創設スルモノナルハ其旨及創設原因、父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創設ス家族ノ庶子又ハ私生子ハ戸主ノ同意ナキトキハ其家ニ入ルヲ得ス從テ一家ヲ創設スヘキモノナリ而シテ此明示ヲ要トスル理由ハ第五ニ於テ述タルト同一ナリ

第七 國籍ヲ有セサル者ノ子タルハ其旨、外國人カ日本ニ於テ出產シタルキハ所在地ノ戸籍吏ニ届出ヲ爲ス

ハキモノナリ而シテ父母カ日本ノ國籍ヲ有セサル旨ヲ明カニスヘキモノトス

本條規定ノ各項ニ就テ事實存セサルカ又ハ不明ナルハ之ヲ明示スルヲ要セサルコトハ第五十條ノ規定スル所ナリ

第六十九條 嫡出子出生ノ届出ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ

寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ出生地又ハ父ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル場合ハ此限ニ在ラス

私生子又ハ父ノ家ニ入ルコトヲ得サル庶子ノ出生ノ届出ハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス本條ハ何レニ出生ノ届出ヲ爲スヘキヤヲ規定セリ

本條ハ子カ嫡出子ナルト庶子ナルト私生子ナルトニヨリ其届出先ヲ異ニセリ即チ下ノ如シ

### 第一 嫡出子ナル場合

此場合ハ出生地又ハ父母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ之ヲ爲スモノトス出生地ハ多クノ場合ニ於テ父母ノ所在地ナルヘク從テ其届出ヲ爲スニ便宜ナルヘシ又其本籍地ハ元ト當然ノ管轄ナルヲ以テ之ニ届出ヲ爲スヲ得ヘキヤ明ナリ而シテ寄留地ニテ出産シタル場合ニ於テハ便宜上其他ノ戸籍吏ニ就テモ亦之カ届出ヲ爲スヲ得ヘキナリ茲ニ注意スヘキハ子カ嫡出子ナルハ父母必ス其籍ヲ同フスルコト是ナリ

### 第二 庶子ナル場合

子カ庶子ナルキハ出生地又ハ父ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ

其届出ヲ爲スヲ要ス此場合ニ於テハ父母其本籍ヲ異ニスルモノナレハ子ハ父ノ家ニ入ルトノ原則ニ從ヒ出生地ニ於テ届出ヲ爲サ、ルハ父ノ本籍地ニ届出ツヘキモノトス然レモ子カ父ノ家ニ入ルヲ拒マレタルトキハ下ニ述フル第三ニ入ルヘキモノトス

### 第三 私生子ナル場合

私生子ナルハ出生地又ハ母ノ本籍地若クハ寄留地ノ戸籍吏ニ届出ツヘキモノトス又庶子カ父ノ家ニ入ルヲ得サル場合ハ私生届ト同一ノ結果ヲ來スヘキモノナルヲ以テ其届地ニ於テモ全ク同一ナリトス若シ父母共ニ知レサルハ出生地又ハ子ノ所在地ノ戸籍吏ニ届出ツヘキモノトス

第七十條 氣車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ其届出ニ付テハ到着地ヲ以テ出生地ト看做ス

本條ハ汽車又ハ航海日誌ヲ設ケサル船舶内ニテ出生シタル場合ノ届出地ヲ規定セリ

汽車中ニテ出生シタルハ其届ヲ爲スハ法理ヨリ論スルハ其出生シタル地ニ於テスヘキモノナリト雖モ汽車ノ進行中ニ出生シタルハ中途ニテ之カ届出ヲ爲スニ由ナク從テ其停車スベキ地即テ到着地ヲ以テ出生地ト見做シ其地ニ於テ届出ヲ爲スヘキモノトス到着地トハ一列車ノ接到スヘキ終局地ヲ指スニアラスシテ出生後産婦カ降車シタル地ヲ云フ又船舶ハ航海日誌ヲ備ヘ日々航海ノ模様ヲ記載スルモノトス從テ船中ニテ出生シタルハ第七十八條ニ依リ届出ヲ爲スモノナルモ近海ヲ航行スル小形船舶ニアリテハ航海日誌ヲ備フルニ及ハサルモノアリ此等ノ場合ニ於テハ汽車ト同シク其到着地ヲ以テ出生地ト見做スモノトス

本條ニ於テハ汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶ト云ヘルモ此等ハ單ニ出生地ヲ定ムルニ疑アル重ナル場合ヲ示セルモノニシテ他ニ之ニ類スルモノアルハモ亦本條ニ依ルヘキモノトス例ヘハ電氣車ノ如キ是ナリ

第七十一條 嫡出子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スユト能ハサル場合及ヒ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父ヨリ之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス

前二項ニ掲ケタル者ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ

### 第一 戸主

第二 同居者

第三 分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四 分娩ヲ介抱シタル者

同順位ノ届出義務者數人アルトキハ其中ノ一人ヨリ届出ヲ爲ス  
ヲ以テ足ル

本條ハ届出人ノ順序ヲ規定セリ

本條ハ出生子カ嫡出子ナルト庶子ナルト私生子ナルトニヨリ其届  
出人ヲ區別セリ即チ下ノ如シ

第一 嫡出子

出生子嫡生子ナルルハ父ヨリ届出ヲ爲サ、ルヘカラス然レモ父カ  
届出ヲ爲スコト能ハザル場合及ビ父カ離婚又ハ離縁ニヨリ其家ヲ  
去リタルルハ又ハ父母共ニ子ノ出生前ニ其家ヲ去リ其後母ノミ復籍

シタルルハ母ヨリ届出ツヘキモノトス(民法第七百三十四條)

第二 庶子

庶子ナルルハ其父ヨリ届出ツヘキモノトス其父ノ家ニ入ルコトヲ  
得サル庶子ニ就テモ亦同シ

第三 私生子

私生子ハ父ナキカ故ニ母ヨリ之ヲ届出ツヘキヤ當然ナリ

以上述フル所ハ父又ハ母カ届出ヲ爲ストヲ得ル場合ナリ若シ第一  
ニ述フル嫡出子及第二ニ述フル庶子ノ出生届出ニ關シ父カ之ヲ届  
出ツル能ハサルルハ母ヨリ届出ヲ爲スヘキモノタリ而シテ母モ亦  
届出ヲ爲ス能ハサル事由アルルハ左ニ掲クル者ハ其順序ニヨリ届  
出ヲ爲スヘキモノトス

(一) 戸主

戸主ハ一家ノ長ニシテ家族ヲ統括シ一家ヲ整理スル上ニ於テ諸種ノ權利義務ヲ有ス故ニ家族ノ出生子アルハ其家族カ届出ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ己レ先ツ第一ノ義務者トシテ届出ヲ爲スヘキモノトス

(二) 同居者

戸主若シ届出ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テ第二位ノ義務者トシテ同居者之ヲ届出ツルモノトス同居者トハ事實上一家ニ住居スル者ノ意ニアラスシテ法律上一家内ノ家族タル者ヲ云フ即チ一家ノ家族カ同一家ニ在ル他ノ家族ヲ指スノ稱ナリ

(三) 分娩ニ立會タル醫師又ハ産婆

同居者モ亦届出ヲ爲ス能ハサル場合ニハ第三位ノ義務者トシテ分娩ニ立會タル醫師又ハ産婆ニ此義務ヲ負ハシメタリ是レ醫師又ハ

産婆ハ其職業上其分娩ニ立會ヒタルモノナレハ公益上ノ理由ヨリ之ニ届出ノ義務ヲ負ハシムルハ別ニ非議スベキナシ

(四) 分娩ヲ介抱シタル者

分娩ニ醫師産婆ノ立會ナク又ハ届出ヲ爲スモノアラサルハ分娩ノ當時産婦ヲ介抱シタル者ヲシテ届出ノ義務ヲ負ハシム是レ公益上ノ理由ニ出ツルモノト知ルヘシ

以上述フル四者ハ父又ハ母カ届出ヲ爲ス能ハサル場合ニ屬ス故ニ父又ハ母カ届出ヲ爲スノ義務ナクシテ之ニ對シ親權ヲ行フ父又ハ母若クハ後見人アルハ其父又ハ母若クハ後見人ニ於テ之カ届出ヲ爲ス義務ヲ負フモノナルヲ以テ其親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキカ又ハ此等ノ者届出ヲ爲ス能ハサル場合ニアラサレハ(一)乃至(四)ニ掲クルモノハ其責任ナキモノトス

而シテ以上述フル届出義務者ノ内同一順位ニ在ル者二人以上アル  
キハ其内ノ一人ヨリ届出ツルヲ以テ是レ本條第四項ノ命スル  
所ナリ然レモ此届出ハ戸主ニ關セサルモノナリ戸主ハ常ニ一人ナ  
ルヲ以テ第三項第二號以下ニ適用ヲ見ルナルヘシ例ヘハ同居者二  
人アリタルキハ其内ノ一人ヨリ届出ツルヲ以テ他ノ者ハ其義務ヲ  
免ル、モノトス

第七十二條 夫ハ妻ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認セントスル場合ト

雖モ前條第一項ノ規定ニ依リ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ前條ノ補則ナリ

夫ハ妻カ出產シタル子ノ嫡出子ナルコトヲ否認スルコトヲ得ルハ民法  
ノ規定スル所ナルヲ以テ本條ニ於テ論スヘキモノニアラスト雖モ  
否認ノ何物タルヲ知ルハ本條ヲ解スルニ於テ必要ナルヲ以テ其大

畧ヲ一言スヘシ嫡出子トハ夫妻正當ノ婚姻後ニ若生シタル者ヲ指

スノ稱ナリ而シテ人類ノ出生ハ一定ノ期間内母ノ胎内ニ宿リ然ル  
後分娩ニ至ルモノナルヲ以テ婚姻中ニ懐胎シタル子ハ勿論婚姻成  
立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ  
生レタル子ハ婚姻中懐胎シタルモノト見做サレ嫡出子トナルカ故  
ニ夫ハ其婚姻中ニ懐胎シタルヤ否ヤノ疑アル場合ニハ其嫡出子タ  
ルコトヲ認メサルコトヲ得ルナリ而シテ其否認ハ訴訟ニヨリ決スルモ  
ノニシテ裁判ヲ俟タスシテ確定スルモノニアラス

本條規定スル所ハ未タ裁判ヲ經サルモノニテ其嫡出子ナルヤ將タ  
私生子ナルヤ確定セサルモノナルヲ以テ其裁判アル迄ハ民法ノ規  
定ニ從ヒ夫ノ子タルコトヲ確定セサルヘカラス故ニ其届出義務タル  
ヤ元ヨリ父ニ存スルモノトス是レ本條ニ於テ夫ヲシテ届出ノ義務

ヲ負ハシメタル所以ナリ

第七十三條

民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ出生子ノ

父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス此  
場合ニ於テハ其届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス  
父カ裁判ニ依リテ定マリタルトキハ其父ハ裁判確定ノ日ヨリ一  
个月内ニ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ  
届出ヲ爲シ且第一項ノ届出ニ依リテ爲シタル登記ノ取消ヲ申請  
スルコトヲ要ス

本條ハ裁判ニ依リ父ヲ定ムヘキ場合ノ届出義務者ヲ規定セリ

民法第八百二十條ニ依レハ嫡出子トハ左ノ者ヲ云フ

- (一) 婚姻成立ノ日ヨリ二百日後ニ生レタル子
- (二) 婚姻解消又ハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子

故ニ女ハ前婚解消又ハ取消ノ日ヨリ六ヶ月後又ハ女カ前婚中ニ懷  
胎シタル場合ハ其分娩後ニアラザレハ再婚ヲ爲スヲ得ス若シ女  
カ此規定ニ反シテ婚姻ヲ爲シタルキハ婚姻成立ノ日ヨリ二百日後  
前婚解消又ハ取消ノ日ヨリ三百日以内ニ當ル時ニ分娩シタルキハ  
前婚中ニ懷胎シタルモノナリヤ再婚ニ因リテ懷胎シタルモノナリ  
ヤ知ルヘカラス是ヲ以テ民法第八百二十一條ニ依リ裁判所カ其父  
ヲ定ムルモノトス此場合ニ於テハ子ノ父未タ決セサルヲ以テ恰モ  
私生子ト同様ノ場合ナルヲ以テ母ヨリ其届出ヲ爲サシム而シテ此  
場合ニ於テハ其届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス然レ  
モ此記載ヲ要スル所以ハ第六十八條第二號ニ規定スル所ト異レリ  
同條ニ示ス處ハ私生子ニシテ何人カ父ナリヤ知ル能ハサル場合  
ヲ云フモノニシテ本條ハ甲乙何レカ其二者ノ内ナルモ未タ其甲ナ

ルヤ乙ナリヤヲ確メ得サル場合ヲ云フモノナレハナリ  
父カ裁判ニ因リ定マリタルトキハ其子タルコトヲ認メラレタルモ  
ノニシテ其父ハ茲ニ届出義務ヲ發生ス而シテ父ハ裁判確定ノ日ヨ  
リ十日内ニ第六十八條ニ規定セル條件ヲ具シテ届出ヲ爲サ、ルヘ  
カラス此場合ニハ裁判ノ謄本ヲ添付スルヲ要ス是レ其父タルト  
ヲ明カニスルモノニシテ之ト同時ニ前ニ母カ爲シタル登記ハ無効  
ナルヲ以テ之カ取消ノ申請ヲ爲サ、ルヘカラス是レ第二項ノ示ス  
所ナリ

**第七十四條** 病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場  
合ニ於テ父又ハ母ヨリ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ病院、監  
獄又ハ其他ノ公設所ノ長若クハ管理人ヨリ出生ノ届出ヲ爲スコ  
トヲ要ス

本條モ亦届出義務者ヲ規定セリ  
病院監獄其他ノ公設所ニ於テ子ノ出生アリタル場合ニ於テモ父又  
ハ母ヨリ届出ヲ爲スハ當然ナリト雖モ若シ父又母ヨリ届出ヲ爲ス  
然サル事由アルハ病院又ハ監獄其他ノ公設所ノ長若クハ管理人  
ヨリ其届出ヲ爲スヲ要ス是其長又ハ管理人ハ其病院又ハ監獄其  
他ノ公設所ヲ管理スルモノナルヲ以テ其内ニ於テ生シタル事柄ハ  
凡テ之ヲ處理セサルベカラザルノ義務アルモノナルヲ以テナリ  
本條ト第七十一條ト對照スルトキハ其順位ハ父母届出ヲ爲ス能ハ  
サルトキハ本條ニ掲クルモノ其義務ヲ負ヒ本條ニ掲クルモノ其届  
出ヲ爲ス然サルトキハ第七十一條第三項ニ從フモノナルモ其餘ニ  
掲クル者届出ヲ爲ス能ハサル場合ハ恐ラクナカルヘキナリ

**第七十五條** 棄兒ヲ發見シタル者ハ二十四時内ニ其旨ヲ戸籍吏ニ



届出ツルコトヲ要ス

棄兒發見ノ届出アリタルトキハ戶籍吏ハ其兒ニ氏名ヲ命シ且之ニ附屬スル衣服、物品、發見ノ場所、年月日時其他ノ景況並ニ其兒ノ出生ノ推定年月、氏名、男女ノ別、引受人ノ氏名、職業、本籍地及ヒ所在地又ハ育兒院ノ稱號並ニ場所及ヒ引渡ノ年月日ヲ調書ニ記載シテ之ヲ届書ニ添ヘ置クコトヲ要ス

引受人又ハ育兒院ニ變換アリタルトキハ雙方ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

第二項ノ調書ハ登記ニ付テハ之ヲ届書ト看做ス

本條ハ棄兒ヲ發見シタル場合ノ届出ヲ規定ス

人ノ身分登記ハ公益ニ重大ナル關係アルコト前屢之ヲ述タリ故ニ如何ナル場合ト雖モ人ノ身分登記ナカルヘカラサルヤ當然ニシテ

其登記ヲ爲サントスルニハ種々ノ方法ニヨリ之ヲ届出サシメザルヘカラス茲ニ棄兒ノ如キニ至テモ亦我國民タルニ背カサルヤ勿論尙ク之カ登記ヲ爲スヘキモノタルコト更ニ疑ヲ狹ムヘキニアラス然レモ其棄兒タルヤ其父母ヲ知ル能ハス從テ之カ届出ヲ爲スモノナカルベシ是ヲ以テ何人タルヲ問ハス之レヲ發見シタル者ニシテ二十四時間内ニ其旨ヲ戶籍吏ニ届出テシムルモノトセリ而シテ其届出ヲ爲スニハ何レノ地ニ於テフヘキヤ本條單ニ戶籍吏ニ届出ツルコトヲ要ストアルヲ以テ見レハ何レノ地ニ届出ツルモ發見者ノ便宜ニ任セタルモノ、如シ是レ發見者ヲシテ一定ノ地ニ届出テシムルモノト定ムルトキハ其煩ヲ厭ヒ或ハ之レヲ穩秘スルコトナシトセス是此寛大ナル規定アル所以ナリ然レトモ發見者モ既ニ之カ届出ヲ爲スノ赤心アリ從テ自然棄兒發見ノ地ニ於テ届出

ヲ爲ス場合多カルヘキナリ

以上届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ單ニ棄兒ヲ發見シタル旨ヲ戸籍吏ニ届出ツルモノニシテ之ヲ受ケタル戸籍吏ハ棄兒ニ氏名ヲ命シ次ニ左ノ方式ニ依リ調書ヲ作り之ヲ届出ニ添付ス

第一 其兒ノ氏名及男女ノ別出生ノ推定年月

是其兒ヲ表示スルモノニシテ將來其氏名ニ依テ其子ハ表示セラル、モノナリ

出生ノ推定年月ハ其兒ノ年ヲ數フル基本トナルモノナリ

第二 其兒ニ付屬シタル衣服物品發見ノ場所發見ノ年月日時其他ノ景況

是他日其兒ノ父母ヲ知ルノ便ニ供セラル、モノニシテ又其兒カ棄兒タリシコトヲ明カニスルニアリ

第三 引受人ノ氏名、職業、本籍地及所在地又ハ育兒院ノ稱號並ニ場所引渡ノ年月日

是レ其兒ヲ養育スルノ責任者ヲ明カニスルト同時ニ其兒ノ所在地ヲ明カニスル爲メニ備フルモノトス故ニ若シ引受人又ハ育兒院カ變換シタルトキハ双方ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ双方ヨリ届出ツル所以ノモノハ前述フル如ク引受人又ハ育兒院ハ其ノ兒ヲ養育スルノ義務アルヲ以テ義務ノ變換アリタルハ双方ヨリシテ届出サレハ事實ヲ確認シ其責任者ヲ明カニスル能ハサルヲ以テナリ

以上棄兒發見者ノ届出ハ單ニ其發見ノ旨ヲ申出ツルニ止マルヲ以テ登記ヲ爲ス場合ニハ戸籍吏ノ作りタル調書ハ發見者ノ届書又ハ届出ノ調書口頭ヲ以テ届出ツル場合ト共ニ届書ト看做シ之ニ依テ

登記ヲ爲スモノトス

第七十六條 棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其兒ヲ引取ルトキハ一个月内ニ第六十八條ノ届出ヲ爲シ且棄兒發見ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

本條ハ棄兒ノ父母カ現出シタル場合ヲ規定セリ  
棄兒ノ父又ハ母カ現出シテ其子ヲ引取ルニ於テハ其子ハ初メテ父母ヲ明ニシ從テ身分上ニ變更ヲ生スルモノナルカ故父又ハ母ハ第六十八條ノ規定スル所ニ從ヒ届出ヲ爲シ且ツ前條ニ依リ爲シタル登記ノ取消ノ申請ヲ爲スヘキモノトス其理由ノ如キハ説明ヲ俟タスシテ明カナラン

第七十七條 出生又ハ棄兒發見ノ届出ヲ爲サ。ル前出生子又ハ棄兒カ死亡シタルトキハ出生又ハ棄兒發見及ヒ死亡ノ届出ヲ爲ス

コトヲ要ス

本條ハ出生子又ハ棄兒發見前死亡セシトキノ手續ヲ定メタルモノニシテ即チ其出生子ノ届出前死亡シ又ハ棄兒ノ發見前死亡セシトキハ其出生及死亡届ヲ差出シ又棄兒發見ノ届ト死亡ノ届ト同時ニ戸籍吏ニ提出スヘキモノトス之レ當然ノ事柄ニシテ法文明瞭ナレハ別ニ詳述セス

第七十八條 航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ乗船者中ヨリ選ミタル證人ノ前ニ於テ第六十八條ニ掲ケタル諸件ヲ航海日誌ニ記載シ證人ト共ニ署名、捺印シ且證人ノ出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス  
前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ着シタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ其出生ニ關フル航海日誌ノ謄本ヲ其地

ノ戸籍吏ニ送付スルコトヲ要ス

艦船カ外國ノ港ニ着シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク其出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ送付シ公使又ハ領事ハ三個月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ父母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルコトヲ要ス

本條ハ航海中ニ出生シタル場合ニ於ケル特別ノ規定ナリ  
軍艦又ハ商船ハ遠洋ヲ航海シ遠ク陸地ヲ離ル、トアルベシ故ニ司法及行政ノ權ハ其航海中ニ於テハ陸地ニ於ケルヨリモ之ヲ行フニ極メテ困難ナリ是ヲ以テ艦長又ハ船長ヲシテ或ル一定ノ限度ニ於テ司法及行政ニ關スル必要ナル處分ヲ行ハシムルモノトセリ是便宜ヲ重トシタル主義ニシテ亦止ヲ得サルニ出タルモノナリ其航海

中ニ於テ出生アリタル場合ニモ必要ナル務ヲ行フモ亦前述ノ理由ニ存ス而シテ艦長又ハ船長カ爲スヘキ手續ハ左ニ述ブル所アラン  
航海中ニ子ノ出生アリタルトキハ艦長又ハ廿四時間ヲ過キサル時間ニ乗船者中ヨリ撰ミタル證人ノ前ニテ第六十八條ノ方式ニ從ヒ航海日誌ニ記載セサルヘカラス其證人ヲ要スル理由ハ艦長又ハ船長ハ常ニ其事務ヲ取扱フモノニアラサルヲ以テ或ハ手續ノ疎雜ニ流レ誤謬ヲ生スルノ恐アルヲ以テ證人ヲシテ立會ハシメ其ノ航海日誌ノ正確ナルヲ證セシムルモノタルナリ而シテ其證人ヲ表示スル爲メ證人ノ出生ノ年月日職業及本籍地ヲ明カニシ然ル後戸籍吏ハ證人ト共ニ署名捺印シ其航海日誌ノ誤ナキヲ證スベシ右ノ手續ヲ爲シタル後第一着ニ日本ノ港日本ノ港ニ着シタル片ハ二十四時間内ニ其出生ニ關スル部分ノ謄本ヲ作り之ヲ着港ノ地ノ戸籍吏

ニ送付ス。レモノトス其戸籍吏ハ之ヲ受取リタルキハ直ニ登記ヲ爲スハキモノナリ

艦船カ若シ第一着ニ外國ノ港ニ着シタルキハ艦長又ハ船長ハ廿四時間内ニ其國ニ駐在スル日本公使又ハ領事ニ其出生ニ關スル部分ノ謄本ヲ送付シ其公又ハ使領事ハ三ヶ月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ父母ノ本籍地ノ戸籍吏ニ發送スルモノトス若シ其着シタル國ニ日本ノ公使又ハ領事駐在セサルキハ止ヲ得ス駐在セル國ノ港ニ着スルマテ其手續ヲ爲サ、ルモノナリ

### 第三節 嫡出子ノ否認

嫡出子ノ否認トハ如何ナルコトナルヤハ前之ヲ述ヘタルヲ以テ茲ニ之ヲ發セス

第七十九條 嫡出子否認ノ裁判カ確定シタルトキハ否認者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ左ノ諸件ヲ具シ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出テ且既ニ出生ノ登記ヲ爲シタル者ニ付テハ登記ノ變更ヲ申請スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 出生ノ年月日
- 三 否認ノ裁判カ確定シタル年月日

本條ハ嫡出子否認ノ届出期間及届出ノ條件ヲ規定セリ  
嫡出子ノ否認ハ裁判ノ確定ニヨリ決スルモノナルヲ以テ第七十二條ニ依リ先ツ父ヨリ届出ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ其裁判カ確定シタルキハ否認者即チ父ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ條件ヲ具シ且ツ裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出サルヘカラス

(一) 子ノ名及男女ノ別

(二) 出生ノ年月日

以上二個ノ要件ハ子ノ何人ナルヤヲ明カニスルニアリ若シ之ノ條件ナキハ登記ノ目的モ亦ナキモノト云ハサルヘカラス是更ニ喋々ヲ俟タスシテ明カナル所ナリ

(三) 否認ノ裁判カ確定シタル年月日

是否認ノ裁判カ確定シタル日ハ親子ノ身分關係消滅スル日ナルヲ以テ其子及否認者ノ將來ノ身分上重大ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テナリ

以上否認ノ登記ヲ届出ツル場合ニハ既ニ第七十二條ニ依リ出生ノ届ヲ爲シタル者ニ就テハ其登記ノ變更方モ併セテ申請スヘキヤ當然ナリ茲ニ注意スベキハ本條否認ノ裁判ノ勝本ヲ添ユルヲ命シタ

レハ否認ノ裁判アリテ且ツ確定シタルコトヲ明カニスルニアリ又本條否認者トアリテ父ト掲ケサルハ既ニ否認ノ裁判確定ニ至リ從テ親子ノ關係絶滅セルヲ以テ父ナル語ヲ用ユヘカラザルニ因ルナリ

第四節 私生子ノ認知

私生子ノ認知トハ如何ナルコトヲ云フヤハ以下各條ヲ説明スル上ニ於テ其必要アルヲ以テ聊カ其大意ヲ述ヘントス

私生子トハ父ノ知レサル子ヲ云フ而シテ父ノ知レサルトハ法律上父ノ知レサルモノニシテ事實ニ於テ父ノ知レサルヲ云フニアジス故ニ私生子ハ其父又ハ母カ自己ノ子ナルコトヲ認ムルコトヲ得ルモノニシテ其認ムルコトヲ稱シテ認知ト云フ而シテ私生子カ父ノ認知ヲ得タルトキハ庶子トナルモノトス

以上私生子ノ認知ハ本法ニ從ヒ之ヲ届出テ、之ヲ爲スモノナリ故ニ此届出ハ私生子ノ身分上ニ重大ナル影響ヲ受クルモノナルヲ注意セサルベカラス

本節規定スル所ノモノ凡テ五ヶ條第八十條乃至第八十三條ハ届出ノ方式ヲ規定シ第八十四條ハ認知セラレタル胎内ノ子カ死体ニテ分娩シタル場合ヲ規定セリ

### 第八十條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 子ノ名及ヒ男女ノ別
- 二 出生ノ年月日
- 三 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日
- 四 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地

前項第四號ノ場合ニ於テ母カ家族ナルトキハ其戸主ノ氏名、職

業本籍地及ヒ其戸主ト母トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ハ届書ニ具備スヘキ條件ヲ規定セリ

其條件左ノ如シ

第一 子ノ名及男女ノ別

第二 出生年月日

以上其子ヲ表示スルモノニシテ別ニ説明ヲ要セス

第三 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日

子ハ死亡シタリト雖モ尙父又ハ母ノ認知ヲ受クルコトヲ得ルナリ而シテ此場合ニ於ケル届書ニハ死亡ノ年月日ヲ掲ケサルヘカラス蓋死亡シタル子ヲ認知スルノ意思ヲ明ニスルニアリ

第四 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名職業及本籍地母カ認知ヲナスニハ父ノ誰タルコトヲ明示スルコトヲ得ス父カ認知ヲ

爲ス場合ニ於テハ其母ノ誰タルコトヲ明カニセサレハ子ノ生母ヲ顯サ、ル奇怪ナル届書トナルヲ以テナリ

戸主ハ家族ノ私生子カ其家ニ入ルヲ拒ムノ權アルハ前述タル所ナリ故ニ母ノ戸主カ何人タルヤ及ビ戸主ト母トノ續柄ヲ知ルハ父ノ認知ト重大ナル關係アルモノナレハ此等ノ事實ヲ明カニスルノ必要アリ故ニ本條第二項ニ於テハ此等ノ記載等ヲモ爲スハキコトヲ規定シタルモノナリ

(付言)届書記載要件ニ關シ何故ニ其記載ヲ必要トスルヤノ理由ニ付テハ本條ニ於テ畧ボ説キ盡シタルヲ以テ以下單ニ不明ノ点ヲ摘出シ之ニ其意義ヲ付スルニ止メン讀者之レヲ諒セヨ

第八十一條 民法第八百三十一條第一項ノ規定ニ依リテ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ認知者ハ母ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ具シテ其

届内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

本條ハ胎内ノ子ヲ認知スル場合ヲ規定セリ

民法第八百三十一條第一項ニ依レハ父ハ胎内ニ在ル子ト雖トモ之ヲ認知スルコトヲ得而シテ此場合ニ於ケル認知ノ届出ハ認知者即チ父ヨリ之ヲ爲スヘキモノナリ是既ニ出生シタル子カ父ノ認知ヲ受クルト同一ナレバ其届出人モ亦同様父ヨリスベキモノナリ而シテ其届出ニハ母氏名、職業及本籍地ヲ具シ母ノ誰タルコトヲ明カニスルト共ニ其胎内ニ在ル子ヲ認知スル旨ヲ明示セサルベカラス

第八十二條 民法第八百三十條及ヒ第八百三十一條ノ規定ニ依リテ子、母又ハ直系卑屬ノ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ承諾ノ證書ヲ添ヘ又ハ承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ承諾ノ旨ヲ附記シ之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス



本條ハ父カ子ヲ認知スルニ承諾ヲ要スル場合ノ方式ヲ規定セリ  
民法第八百三十條ニ依レハ父カ成年ノ私生子ヲ認知スルニハ其認  
知セラル、子ノ承諾ヲ要スルモノトス又同第八百三十一條第一項  
ニ依レハ父カ胎内ノ子ヲ認知スルニハ母ノ承諾ヲ要ス又同條第二  
項ニ依レハ父又ハ母カ死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ其子ノ直系  
卑屬(直系卑屬トハ自己ヨリ親系ノ直下スル血族ヲ云フ例ヘバ子孫  
曾孫玄孫等ノ如シ民法ヲ參照スベシ)カ成年者ナルトキハ其者ノ承  
諾ヲ要スルモノトス

以上認知ヲ爲スニ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ其承諾アリタルコト  
ヲ明示セサルヘカラス即チ其承諾ノ證書ヲ届書ニ添付スルカ又ハ  
承諾ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其承諾ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印  
セシムルモノトス

第八十三條 遺言ニ依リテ認知ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行

者ハ遺言カ効力ヲ生シタル日ヨリ十日内ニ其認知ニ關スル遺言  
ノ謄本ヲ添へ前三條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス  
遺言ニ依ル認知ノ届出ニハ認知者ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコ  
トヲ要ス

本條ハ遺言ニ依リ認知ヲ爲ス場合ヲ規定セリ

本條ヲ解クニ當テ遺言ニ關スル民法ノ規定ノ大要ヲ一言スルハ本  
條ヲ解スルニ當テ決シテ無用ノ事ニアラサルベシ

遺言ハ遺言者カ自己ノ死亡後受遺者ノ權利上ニ或ル關係ヲ生セシ  
ムル爲メ一定ノ方式ニ依リ爲シタル意思ノ表示ナリ故ニ遺言ハ遺  
言者カ死亡後ニ其遺言ヲ受ケタル者ノ權利上ニ或ル關係ヲ發生ス  
ルモノナレバ死亡ノ日ヨリ初メテ効力ヲ生スルモノナリ又死亡者

ハ其意思ヲ表示シタルモノ之ヲ自ラ行フ能ハサルヘシ故ニ遺言執行者ナルモノアリテ其遺言ノ趣旨ニ從ヒ一切ノ行爲ヲ執行スルモノトス

遺言ハ受遺者ノ權利上ニ或ル關係ヲ生セシムルモノナリ或ル關係トハ財産上ノ權利關係アリ身分上ノ權利關係アリ民法第八百二十九條ニ依レハ遺言ニ依リテ子ヲ認知スルコトヲ得ルナリ是身分上ノ權利關係ヲ生セシムル一ノ場合ナリ

本條ハ民法第八百二十九條ニ規定スル遺言ヲ以テ爲ス認知ノ場合ニハ遺言執行者ヲシテ之カ届出ヲ爲サシメタリ而シテ其届出ハ遺言者死亡ノ日即チ遺言ノ効力ヲ生シタル日ヨリ十日内ニ遺言ニ子ヲ認知スル旨ヲ掲ケタル部分ノ謄本ヲ添ヘサルヘカラズ此場合ニ於テモ第八十條以下第八十三條ノ規定ニ從フヘキヤ言ヲ待タズ此

場合ニ於テハ認知者即チ死亡者ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス是死亡ノ年月日ヲ記スル所以ハ遺言ノ確實ナルコトヲ證スルモノトアリ

茲ニ注意スベキハ本條第一項ニ遺言ノ効力ヲ生ジタル日トアリテ死亡ノ日ト記セサルハ遺言者死亡スルモ遺言無効ニ歸シ其効力ヲ生セサルコトアルヘケレバナリ

**第八十四條** 胎内ニテ認知セラレタル子カ死體ニテ分娩シタルトキハ出生届出義務者ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ一个月内ニ認知ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス但遺言執行者カ認知ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヨリ取消ヲ申請スルコトヲ要ス

本條ハ認知セラレタル胎兒死體ニテ分娩シタル場合ノ規定ナリ

胎内ノ子ハ認知セラレ得ヘキコト前ニ述タル所ナリ而シテ其認知セラレタル胎内ニ於テ死亡シタルトキハ其認知ハ何等ノ効ナカルヘシ故ニ出生届出義務者ヨリ認知ノ登記取消ヲ申請スルコトヲ要スルモノトス

前條ノ規定ニヨリ遺言ヲ以テ認知シタル場合ニ於テハ遺言執行者ヲシテ取消ヲ申請セシムルモノトス蓋シ此場合ニ於テハ出生届出義務者ナキカ故ナリ

### 第五節 養子縁組

養子縁組ノ制ハ古ヨリ我國ニ行ハレ來リタル習慣ニシテ從來廣ク世間ニ行ハレシ處ノモノナリ唯新民法實施ノ今日從來ト異ナル所ハ舊來ハ成年ト未成年トヲ問ハス又實子アルト否トヲ問ハス養子ヲナス

ヲ得ルニ關シテ今日其後ハ成年ニ屬シタル者ニテラナレハ養子ヲナスヲ得ルニ關シテ實子アルモノハ養子ヲナスヲ得サルヲ屬トス民法第八百三十七條第八百四十條即シテ養子縁組ハ養親ト養子トノ間ニ於テ適々親子ノ關係ヲ生スルモノニシテ全ク家名ヲ永續シ其祖先ノ祭祀ヲ絶ヘサラシメントノ主旨ニ出テタル者ナリ

養子縁組ニ三種アリ當事者双方ノ承諾ヲ以テ爲メ者ヲ普通縁組ト云ヒ當事者ノ一方カ其女ニ婚姻セシメ其婿ヲ養子ト爲スヲ婿養子縁組ト云ヒ當事者ノ一方カ其死後ノ爲メ遺言書ヲ以テ養子ト爲スヲ遺言養子ト云フ而シテ右婿養子縁組ノ場合ヲ除ク外養子トハ男女ニ通シテノ稱ナリト知ルヘシ

茲ニ注意スヘキハ婿養子縁組ハ婚姻ト縁組トヲ合シタル者ナレハ婿タル資格ニ關シテハ婚姻規則ニ從ヒ養子タル資格ニ關シテハ縁組ノ

規則ニ從フコトヲ要スルニアリ

第八十五條

縁組ノ届書ニハ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地
  - 二 養子ノ實父母ノ氏名、職業及ヒ本籍地
  - 三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、職業及ヒ本籍地
- 養子カ婚家又ハ養家ヨリ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ入ル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外婚家ノ戸主又ハ前養親ノ氏名、職業及ヒ本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス

本條ハ養子縁組ノ届書ニ就テノ規定ナリ

養子縁組ハ之ヲ戸籍吏ニ届出タル日ヨリ其効力ヲ生スル者ニシテ若シ届出ヲ怠ルトキハ其縁組ハ公ニ認めラル、コトナキ者ナリ而シテ養子縁組ノ届出ハ當事者ヨリ又ハ次條ニ規定セルモノヨリ署

名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲サ、ルヘカラス

第一號ノ當事者トハ養親ト養子ヲ云ヒ又第三號ノ當事者カ家族ナルトキトハ養親又ハ養子ト爲ルヘキ者カ戸主ニ非サル場合ヲ云フニ養子カ婚家(婿養子ナルル)又ハ養家(普通養子又ハ遺言養子ナルトキ)ヨリ更ニ他家ノ養子ト爲ラント欲スルトキハ其届出ニ本條ノ第一號乃至第三號ノ諸件ヲ記載スルノ外尙ホ婚家ノ戸主又ハ前養親(再度ノ養子縁組ナル故ニ前養親ト云フテ後ノ縁組ト區別セシナリ)ノ氏名職業及本籍地ヲ記載スルコトヲ要ス是レ前後ノ縁組ヲ明了ナラシメ人ノ身分干係ヲ確實ニ証明スルニ在リ

第八十六條

民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ縁組ノ承諾ヲ爲シタル者ハ養子ニ代ハリテ縁組ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

本條ハ養子カ十五年未滿ナルトキニ養子ニ代リテ届出ヲ爲スベキ